令和７年度【令和６年度事業】

砥部町教育委員会点検評価報告書

令和７年９月

砥部町教育委員会

Ⅰ　砥部町教育大綱

誇りある地域、そして住み続けたいと思う魅力的なまちづくりを進めるためには、人づくりが大切です。本町に暮らす住民が、まちの現在と未来を担う大切な「力」であり、教育はその「力」を育む最も重要な営みです。

砥部町では、「まちづくり」は「人づくり」であるという理念に基づき、本町に暮らす住民一人ひとりが様々な学習や活動、交流を通じてお互いの基本的人権を尊重し、互いに学び合い高め合うまちを目指し、令和５年度から５年間の教育行政の方向を示す『第３次砥部町教育大綱』を策定しています。

大綱では、分野別に目標を設定し、目標実現に向けた政策方針、主要施策を次のとおり定め、学校・家庭・地域の連携体制を構築し、地域の文化や歴史、施設、人材など、地域の資源を最大限に活用した、生涯にわたり学び続けることのできる学習環境の整備を進めます。

子ども・教育分野

目標 1.未来を担う子どもたちが、たくましく健やかに育まれるまちを実現します。

■政策１　子育て支援の充実

子どもの健やかな成長を第一に考え、子育て支援事業の実施により、多様なニーズに対応できる保育サービスの充実を図り、子どもを産み育てやすい環境を整備します。

■政策２　学校教育の充実

子どもたちが自らの力で未来へはばたくことができるよう、豊かな人間性や確かな学力、健やかな体などを育む教育を進めます。

主要施策

① 子育て支援サービス等の充実
② 多様化するニーズへの対応と子育て負担の軽減
③ 子どもの居場所づくり及び仕事・子育てを両立できる環境の整備
④ 豊かな心を育む教育の推進
⑤ たくましく生きる子どもの育成
⑥ 教育力の向上
⑦ 教育環境の整備

生涯学習分野

目標 2.身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。

■政策１　青少年の健全育成

青少年育成センター補導委員を中心として、生徒指導や非行防止のための活動を推進し、地域における青少年の安全確保に努めます。

また、次代を担う自立した青少年の健全育成を推進するため、青少年に本町の豊かな自然を活用した体験活動の機会を提供するとともに、高校生や大学生等の青少年ボランテイアリーダーと協働して青少年の健全育成に取り組みます。

■政策２　生涯学習環境の整備

自己啓発をしようとする意識の高まりに応じて、生涯にわたって学び続けることができる学習環境の整備を推進します。

■政策３　人権尊重・男女共同参画の推進

住民一人ひとりの人権が尊重され、差別のない誰もが暮らしやすい社会を実現するため、お互いの人権を尊重し、様々な人が地域で活躍できる地域づくりを目指します。

主要施策

① 青少年の健全育成
② 国際交流の推進
③ ニーズに合わせた学習機会の充実
④ 多様な学習情報の発信とニーズ調査
⑤ 社会教育施設の充実
⑥ コミュニティ・スクール導入に向けた取組
⑦ 人権についての教育・啓発の推進
⑧ 人権擁護の推進と相談体制の充実
⑨ 男女共同参画の推進

文化・スポーツ分野

目標 3.文化・スポーツ活動により感性が育まれるまちを実現します。

■政策 1　文化活動の推進

住民主体の文化・芸術活動の活発化を一層促進するため、一流指導者の確保や、文化協会をはじめとする各種文化・芸術団体及び地域における指導者の育成を図ります。

■政策 2　文化財の保護と活用

歴史及び文化を次世代に継承するため、伝統芸能や文化の保存、継承及び創造を図るとともに、本町が誇る文化財や歴史を積極的に発信し、文化的交流を推進します。

■政策 3　スポーツ活動の推進

生涯スポーツの振興と競技スポーツの向上など、住民一人ひとりが豊かな人生を送れるよう、スポーツを楽しむ機会の充実を図ります。

主要施策

① 文化・芸術活動への参加促進
② 文化・芸術活動を通じた交流の推進
③ 文化財や地域伝統文化の保護と継承
④ 文化財の活用
⑤ ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
⑥ 地域における指導者の確保及び育成
⑦ 社会体育施設等の充実

Ⅱ　教育委員会の事務の点検・評価制度の概要

1　趣旨

砥部町教育委員会では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条の規定に基づき、その権限に属する事務の管理・執行状況について、毎年、点検・評価を行い、報告書を作成しています。

点検・評価の実施により、効果的・効率的な教育行政の推進を図り、変化する社会経済情勢に適確に対応するとともに、職員の意識改革の向上を図ります。

なお、点検・評価の実施にあたり、外部の学識経験者の知見を活用するとともに、報告書を議会に提出、公表することにより、町民への説明責任を果たし、信頼関係を確保することとしています。

≪地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）≫

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2　点検・評価の対象

令和 6 年度の事務事業を対象とし、大きく次の 2 区分とします。

(1) 教育委員が直接に関与、及び活動している事業を「教育委員会の活動状況」とします。

(2) 教育委員会が管理・執行している事務事業及び教育長に委任している事務を「教育委員会における事務の管理・執行状況」とします。

なお、「教育委員会における事務の管理・執行状況」は、令和 6 年度の事務事業を点検・評価したもので、「砥部町教育大綱」に掲げる分類としています。

3　点検・評価の方法

(1) 教育委員会による点検・評価

対象となる事業の実施状況、成果、課題等をまとめ、その妥当性、有効性及び効率性を総合的に判断し、事業の評価及び次年度以降の方向性について、次のとおり自己評価を行いました。

評価	S	目標とする成果を大きく上回った。
	A	目標とする成果をやや上回った。
	B	概ね目標とする成果であった。
	C	目標とする成果をやや下回った。
	D	目標とする成果を大きく下回った。

方向性	拡大	施策上の必要性や住民ニーズにより、さらに拡大・充実を図るもの
	維持	現状どおり事業を継続させることが妥当なもの
	縮小	サービスの提供又は費用が課題となっており、適正化を図るもの
	廃止	施策上の必要性や住民ニーズが減少し、廃止が妥当なもの

(2) 外部有識者による点検・評価

自己評価実施後、その客観性を確保するために、教育に関し学識経験を有する古田章氏（元伊予小学校長）に、主要施策別にご意見をいただきました。

Ⅲ　教育委員会の活動

1　教育委員会の構成

教育委員会は、人格が温厚誠実で、学校、生涯学習及び文化等の教育に関し識見を有するもののうち、町長が町議会の同意を得て任命した教育長及び４人の教育委員により構成されています。

砥部町教育委員会委員(令和７年３月31日現在)

職　名	氏　名	任　期	期　数
教育長	大江　章吾	令和５年２月17日就任 令和８年２月16日満了	２期
委　員 (教育長職務代理者)	篠原　弘康	令和４年２月17日就任 令和８年２月16日満了	２期
委　員	壽野　章子	令和５年２月17日就任 令和９年２月16日満了	１期
委　員	佐川　恵子	令和６年２月17日就任 令和10年２月16日満了	１期
委　員	松永　泰	令和７年２月17日就任 令和11年２月16日満了	１期

2　教育委員会会議の運営状況

教育委員会会議（定例会、臨時会）の令和６年度における運営状況は次のとおりです。

(1) 開催回数　13回（定例会12回/臨時会１回）

(2) 議案件数　36件

(3) 傍 聴 人　４人（累計）

3　学校・幼稚園訪問

(1) 学校訪問

各学校の教育方針や学校経営の実情をもとに、学校教育推進上の諸問題について話し合い、これからの学校教育の推進を図るため、学校施設の状況視察及び全ての教諭

の授業を参観しました。

【訪問内容】

① 教育方針及び学校教育推進に伴う課題・問題（施設の管理・危機管理・服務など）について、説明を受け協議しました。

② 具体的な教育活動（児童生徒指導の実情と問題点）や特色ある教育活動などについて協議しました。

(2) 幼稚園（こども園）訪問

幼稚園やこども園の運営を協議するため、施設訪問を実施しました。

訪問日	施設名	訪問日	施設名
5 月 23 日	砥部中学校	6 月 13 日	砥部小学校
5 月 31 日	麻生小学校	6 月 26 日	宮内小学校
6 月 13 日	広田小学校	11 月 28 日	幼稚園（こども園）

4　その他の活動状況

開催日	行事名等
4 月 4 日	・新任教職員挨拶会【本庁舎大会議室】
4 月 7 日	・山村留学センター入所式
4 月 9 日	・小・中学校入学式
4 月 10 日	・幼稚園・こども園入園式
7 月 12 日	・砥部町小学校水泳記録会【宮内小学校】
9 月 29 日	・広田小学校運動会
10 月 5 日	・砥部中学校運動会
10 月 8 日	・伊予地区小学校陸上競技大会【ニンジニアスタジアム】
10 月 12 日	・幼稚園・こども園運動会
10 月 13 日	・スポーツまつり in とべ 2024【陶街道ゆとり公園】
10 月 20 日	・砥部地域小学校運動会
11 月 16、17 日	・芸術文化フェスタ
12 月 7 日	・砥部町「人権の町づくり集会」【町文化会館】
1 月 4 日	・砥部町年賀交歓会【中央公民館】
1 月 12 日	・砥部町成人式【町文化会館】
3 月 11 日	・砥部町総合教育会議【中央公民館】
3 月 17 日	・砥部中学校卒業式
3 月 19 日	・幼稚園・こども園卒園式

3 月 24 日	・砥部地域小学校卒業式
3 月 25 日	・広田小学校卒業式 ・山村留学センター退所式
3 月 28 日	・教職員離任式【中央公民館】

Ⅳ　教育委員会における事務の管理・執行状況

目　　次

注 1）評価欄には、各施策別評価の「自己評価」を掲載しています。

施策	No.	評価対象事業名	担当係	評価	方向性	頁
【目標】未来を担う子どもたちが、たくましく健やかに育まれるまちを実現します。						
【主要施策】子育て支援サービス等の充実						
	1	幼児教育推進事業	保育幼稚園係	B	維持	12
【主要施策】豊かな心を育む教育の推進						
	2	就学援助事業	学校教育係	B	維持	13
	3	奨学資金貸与事業	総務係	B	維持	14
	4	特別支援教育推進事業	学校教育係	B	維持	15
	5	地域の特性を生かす教育推進事業	総務係	B	拡大	16
	6	学校給食運営事業	学校給食係	B	維持	17
	7	校務支援・業務改善事業	総務係・学校教育係	B	拡大	18
	8	いじめ・不登校等対策事業	学校教育係	B	拡大	19
	9	山村留学センター運営事業	総務係	B	維持	20
【主要施策】たくましく生きる子どもの育成						
	10	教育活動支援事業	学校教育係	B	維持	21
	11	保健対策事業	学校教育係	B	維持	22
	12	運動・体力向上推進事業	学校教育係	B	維持	23
	13	キャリア教育推進事業	学校教育係	A	維持	24
	14	外国語教育推進事業	総務係・学校教育係	B	維持	25
	15	部活動地域移行事業	学校教育係	C	維持	26
【主要施策】教育力の向上						
	16	教職員研修促進事業	総務係	B	維持	27
	17	学力向上推進事業	学校教育係	B	維持	28
	18	情報教育推進事業	学校教育係	B	維持	29
【主要施策】教育環境の整備						
	19	学校間連携推進事業	総務係	B	維持	30
	20	学校施設整備・維持管理	総務係	B	維持	31
	21	学校安全対策事業	総務係	A	維持	32

施策	No.	評価対象事業名	担当係	評価	方向性	頁
【目標】身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。						
【主要施策】青少年の健全育成						
	22	青少年健全育成事業	社会教育係	B	維持	33
【主要施策】国際交流の推進						
	23	国際交流事業	社会教育係	B	維持	34
【主要施策】ニーズに合わせた学習機会の充実						
	24	公民館活動事業	公民館係	B	維持	35
【主要施策】社会教育施設の充実						
	25	公民館施設管理	公民館係	B	維持	36
	26	読書活動推進事業	社会教育係	B	維持	37
【主要施策】コミュニティ・スクール導入に向けた取組						
	27	コミュニティ・スクール導入事業	社会教育係	A	維持	38
【主要施策】人権についての教育・啓発の推進						
	28	人権教育・人権対策推進事業	社会教育係	B	維持	39
【主要施策】人権擁護の推進と相談体制の充実						
	29	人権擁護推進事業	社会教育係	B	維持	40
【主要施策】男女共同参画の推進						
	30	男女平等教育の推進	社会教育係	B	維持	41
【目標】文化・スポーツ活動により感性が育まれるまちを実現します。						
【主要施策】文化・芸術活動への参加促進						
	31	文化会館管理運営	文化スポーツ係	C	維持	42
【主要施策】文化・芸術活動を通じた交流の推進						
	32	学習発表会	公民館係	B	維持	43
【主要施策】文化財や地域伝統文化の保護と継承						
	33	文化財保護事業	文化スポーツ係	B	維持	44
	34	地域伝統文化保存伝承事業	文化スポーツ係	B	維持	45
【主要施策】文化財の活用						
	35	文化財への理解促進	文化スポーツ係	B	維持	46
	36	坂村真民記念館	文化スポーツ係	C	維持	47
【主要施策】ライフステージに応じたスポーツ活動の推進						
	37	社会体育推進事業	文化スポーツ係	B	維持	48
	38	レクリエーションスポーツ推進事業	文化スポーツ係	B	維持	49
【主要施策】地域における指導者の確保及び育成						

		39	スポーツ指導者確保及び育成	文化スポーツ係	B	維持	50
	【主要施策】社会体育施設等の充実						
		40	社会体育施設管理	文化スポーツ係	B	維持	51

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	子育て支援課	担当係	保育幼稚園係

目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。
主要施策	子育て支援サービス等の充実

事業№	1	事業名	幼児教育推進事業	決算額	45,258,614円
事業目的	町立幼稚園において、幼児を保育し、義務教育及びその後の教育の基礎を培い、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えてその心身の発達の助長を図る。				

取組内容及び成果

1　幼稚園の運営

家庭や地域と連携しながら、幼児が発達に応じた多様な経験ができるよう、直接体験を重視した活動の充実に向け取り組んだ。

⑴　預かり保育

	実施日数	登録人数	延べ利用人数	1日当たりの利用人数
宮内幼稚園	233日	20人	2,164人	9.3人

⑵　園での活動

・身近な自然と関わる体験（自然物を使った遊び・栽培活動・園外保育）

・体を使った運動遊びや表現活動（サーキット遊び・戸外遊び・製作遊び・運動会・発表会）

・季節の行事や伝統的な行事（七夕集会・園内祭り・ハロウィン・節分豆まき・ひな祭り）

⑶　家庭との連携

・夏祭り、親子遠足、交通安全教室、食育教室など親子で楽しむ行事の実施

・保育参観、祖父母参観、給食参観、特別支援教育周知講習会などの実施

⑷　地域との交流

・地域の方の協力による旬の野菜づくりや芋掘り、ミニコンサート

・消防署・給食センターの社会見学や地域資源である砥部焼づくりの体験

2　幼児教育と小学校教育の円滑な接続

幼児の発達や学びの連続性を確保し、生涯にわたる学びや生活の基盤づくりに資するため、小学校・就学前教育施設との交流活動など連携強化を図った。

自己評価	B	評価理由	幼児の健やかな心身の発達を助けるため、地域や関係機関の協力も得ながら多様な体験活動の場の確保に努めた。また、町内小学校や保育所、こども園、民間園との連携が強化されたことで、保育の質の向上や小学校での学びに向け円滑な接続につながった。

方向性	維持

課題と取組み

令和5年度末の施設統合で町内唯一の幼稚園となったことから、これまで交流してきた宮内小学校に加え砥部小学校・麻生小学校との連携が課題である。園児のスムーズな小学校移行をサポートするため、引き続き各小学校と密な情報共有を行うとともに、全校区とのつながりを意識した交流拡大に努める。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	学校教育課	担当係	学校教育係

目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。
主要施策	豊かな心を育む教育の推進

事業№	2	事業名	就学援助事業	決算額	21,579,703円
事業目的	経済的な事由により就学困難な児童生徒の保護者に対し、就学に必要な経費を助成し、負担軽減を図る。				

取組内容及び成果

1　要保護・準要保護児童生徒援助事業

⑴　支給総額　20,572,959円（小学校：9,713,488円　中学校：10,859,471円）

⑵　対象者数

学校区分	年度	全児童等数	要保護	準要保護
小学校	6年度	1,029人	9人	131人
	5年度	1,022人	7人	123人
	4年度	1,039人	5人	129人
中学校	6年度	510人	3人	79人
	5年度	516人	3人	73人
	4年度	564人	4人	76人

⑶　補助対象品目

学用品費、通学用品費、校外活動費、新入学児童生徒学用品費、修学旅行費、通学費、体育実技用具費、学校給食費、医療費、クラブ活動費、生徒会費、PTA会費、卒業アルバム代、オンライン学習通信費

2　特別支援教育就学奨励事業

⑴　支給総額　1,006,744円（小学校：762,458円　中学校：244,286円）

⑵　対象者数　（特別支援学級在籍児童生徒）　小学校：19人(23人)　中学校：4人（5人）

自己評価	B	評価理由	入学説明会及び事業説明文書の配布により全保護者に事業を周知した。また、年度途中の転入時においても、学校教育課での手続き時に説明を行い、周知漏れを防ぐなど、支援が必要な児童生徒の保護者に対し援助を行った。

方向性	維持
課題と取組み	現行の取り組みを継続して実施する。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	学校教育課	担当係	総務係

目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。
主要施策	豊かな心を育む教育の推進

事業№	3	事業名	奨学資金貸与事業	貸与額	2,040,000円
事業目的	経済的理由により就学が困難で、有用な人材の就学の機会を確保する。				

取組内容及び成果

次に掲げる要件を備え、砥部町奨学資金奨学生選考委員会で採用された者に対し、奨学金を貸与した。

⑴　学校教育法に規定する高等学校又は高等専門学校第3学年までに在学する者
⑵　学業・人物ともに優れ、かつ、健康な者
⑶　学資の支弁が困難であると認められる者
⑷　保護者又は扶養義務者が砥部町に居住する者
⑸　20歳未満の者

1　貸与実績（6年度）

区分	貸与人数	貸与上限月額	貸与年額
公立	5人	20,000円	1,200,000円
私立	3人	25,000円	840,000円

2　償還実績（6年度）

償還者数	償還額
29人	2,937,000円

3　基金管理（基金運用状況）

⑴　期　首　30,819,663円　（通帳残高　15,154,163円　　未償還額　15,665,500円）
・貸与金　2,040,000円
・償還金　2,937,000円
・利　息　6,152円
⑵　期　末　30,825,815円　（通帳残高　16,057,315円　　未償還額　14,768,500円）

自己評価	B	評価理由	令和６年度は新たに申請のあった２人全員の貸与を決定し、貸付を開始した。また、償還管理についても適正に実施した。

方向性	維持
課題と取組み	現行の取り組みを継続して実施する。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	学校教育課	担当係	学校教育係

目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。
主要施策	豊かな心を育む教育の推進

事業№	4	事業名	特別支援教育推進事業	決算額	64,920,124円
事業目的	支援を要する全ての幼児及び児童生徒が豊かに学校生活を送れるように具体的な支援を行なう。				

取組内容及び成果

1　教育支援委員会

特別支援学級への入級、学校生活支援員配置、通級指導の要否等の就学に必要な事項を審議した。

⑴　教育支援委員会会議開催回数　２回（審議対象者数　43人　委員報酬等　14,592円）

⑵　教育相談開催回数　２回（相談者数　48人　相談員謝礼等　82,626円）

⑶　発達検査回数８回（検査対象者数　12人　発達検査員謝礼　80,000円、検査用紙　41,184円）

2　巡回相談

特別支援教育士等による巡回相談を実施し、学校等における日常の授業等を観察して、発達の遅れやその心配のある対象者への効果的な支援及び指導の在り方についてアドバイスした。

⑴　巡回相談員派遣日数　34日（対象者数　135人　相談員謝礼　350,000円）

3　特別支援連携協議会

特別支援連携協議会を開催し、関係機関の連携、研修会の実施による教職員の資質向上、保護者理解の促進を図った。

⑴　開催回数　２回

⑵　特別支援教育周知講演会開催回数　１回（講師謝礼　4,000円）

4　学校生活支援員配置　※(　)は対象児童生徒数

年度	幼稚園		小学校		中学校		合計	
６年度	１人	（１人）	28人	（55人）	１人	（１人）	30人	（57人）
５年度	2人	（2人）	21人	（40人）	２人	（２人）	25人	（44人）
４年度	3人	（4人）	22人	（39人）	３人	（３人）	28人	（46人）

⑴　費用

・支援員報酬等　52,650,705円（期末手当・通勤手当含む）

・旅費　6,153円

5　医療的ケア

日常的に医療的ケアを必要とする特別支援学級在籍児童の学校での支援について訪問看護事業所より学校に看護師を配置し、医療的ケアを安全に提供できる環境整備を図った。

⑴　医療的ケア児支援業務（派遣日数　194日　派遣時間　1,117時間　委託料11,666,864円）

自己評価	B	評価理由	相談事業により、特別な支援が必要と思われる児童生徒の現状を把握し、当該児童生徒の状態に応じた支援を行った。また、学校生活の見守り支援が必要な児童生徒に対しては、学校生活支援員を配置し適切に支援を行った。

方向性	維持

課題と取組み

現行の取り組みを継続して実施する。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	学校教育課	担当係	総務係

目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。
主要施策	豊かな心を育む教育の推進

事業№	5	事業名	地域の特性を生かす教育推進事業	決算額	950,000円
事業目的	自然、歴史、文化などの地域の特性を生かした特色ある教育活動を推進し、心豊かで潤いのある充実した生活の創造を図る。				

取組内容及び成果

1　特色のある教育活動への助成

小・中学校の個性ある取組みを円滑かつ効果的に実施するため、次の活動に対し、交付金を交付した。

⑴　地域の歴史、文化、自然を生かす活動
⑵　地域に根ざした勤労、奉仕を体験する活動
⑶　交流の輪を広げる活動
⑷　学校、地域の伝統を築く活動
⑸　その他学校、地域の特性を生かす活動

2　交付額

⑴　砥部地域小学校　各200,000円
⑵　広田小学校　100,000円
⑶　砥部中学校　250,000円

3　学校別事業内容

学校名	事　業　内　容
麻生小学校	環境学習、地域交流、校区探検、福祉学習、砥部焼学習、幼児交流、栽培活動、講演会など
宮内小学校	幼児交流、地域探検、奉仕活動、花・野菜栽培、お話ボランティアなど
砥部小学校	地域高齢者・砥部小OB交流、働く人に学ぶ学習、地域の伝統文化・歴史調査、野菜・米作り体験など
広田小学校	野菜・米作り、砥部焼作り、伝統芸能（太鼓・万歳）、オペレッタ発表など
砥部中学校	総合的な学習（町の実態学習、人権学習、職場体験学習など）

自己評価	B	評価理由	これまでと同様に、地域の「もの」や「ひと」に触れることで、地域への知識や理解を深めることができた。一方で取り組みの固定化が見受けられることから、地域の新たな魅力を発見できる取り組みが必要である。
方向性	拡大		
課題と取組み	学校運営協議会における議論を踏まえ、更なる内容の充実を図る。		

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	学校教育課	担当係	学校給食係

目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。
主要施策	豊かな心を育む教育の推進

事業No.	6	事業名	学校給食運営事業	決算額	217,604,351円
事業目的	調理業務を衛生的かつ円滑、効果的に実施し、栄養バランスのとれた安全で安心な給食を提供する。				

取組内容及び成果

1　学校給食センター運営委員会

学期ごとに学校給食センター運営委員会を開催し、学校給食の取り組み状況や給食材料費の現状等について報告を行いました。（3回開催）

2　給食調理

⑴　実施回数　195回/年　　食数　1,803人/日　　326,096食/延べ

⑵　給食費（学校給食材料費負担金）　86,059,327円　※給食センター管理費に充当

平成29年4月～

	幼稚園	小学校	中学校
1食あたり	235円	250円	290円

令和6年4月～

	幼稚園	小学校	中学校
1食あたり	275円	295円	340円

3　運営経費　（単位：円）

年度	人件費	消耗品費	燃料/光熱水費	賄材料費	修繕/工事費	その他	計
6年度	78,724,318	4,333,345	21,730,917	100,549,059	1,738,168	10,528,544	217,604,351
5年度	58,912,466	4,387,852	20,471,186	88,472,700	3,848,500	10,202,059	186,294,763
4年度	52,904,912	4,222,880	21,487,293	87,815,458	2,060,667	12,012,520	180,503,730

4　地産地消の推進（町内産物資の状況）

⑴　購入額合計　4,600,891円

⑵　物資種類　ほうれん草、キャベツ、米、七折梅など

5　学校給食費保護者負担軽減支援事業

物価高騰等によって影響を受けている保護者の負担を軽減するため、園児・児童・生徒分の給食材料費負担金について令和6年度からの値上げ額を支援し、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金10,000,000円を充当しました。

⑴　免除額合計　13,355,350円

⑵　免除延べ食数　289,018食

自己評価	B	評価理由	幼稚園から中学校までの成長期の子供たちに対し、発育段階に応じた栄養豊かな給食を事故なく提供するとともに、県学校給食会を通じ、可能な限り町内産の米を確保し、地産地消を推進する等、栄養バランスのとれた安全で安心な給食の提供を行った。 また、運営委員会において、学校給食の取り組み状況や給食材料費の現状等について協議を行った。

方向性	維持
課題と取組み	地産地消の推進について、現行の取り組みを継続して実施する。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	学校教育課	担当係	総務係・学校教育係

目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。
主要施策	豊かな心を育む教育の推進

事業№	7	事業名	校務支援・業務改善事業	決算額	
事業目的	教職員一人ひとりに校務用PCを配備し、効率の良い校務環境を提供するとともに、社会問題化している教職員の長時間勤務の改善を図る。				

取組内容及び成果

1　校務用PCの配備　　教育委員会１台　小学校89台　中学校60台（校務支援システム含む）

⑴　リース期間　令和２年８月～令和７年７月（５年間リース）

⑵　支払総額　91,608,000円（うち５年度分18,321,600円）

2　愛媛スクールネット（ES-net）の活用

県下の小中学校等を結ぶ愛媛の教育専用ネットワークに参画し、インターネットによる情報の収集・発信の手段として校務事務に活用した。

⑴　回線利用料　435,600円

3　学校閉庁日の設定

学校業務閑散期となる８月中旬に学校閉庁日を設け、教職員の休暇取得を促すことにより、心身の健康増進や地域活動等へ参画しやすい体制整備を図った。

⑴　実施期間　８月12日(火)～17日(日)

4　スクール・サポート・スタッフの配置

教材の作成など、教員の事務を補助するスクール・サポート・スタッフを各小・中学校に１人配置し、相談体制を充実させたことにより、教員の負担軽減に繋げることができた。

学校名	延べ配置日数	延べ配置時間	人件費
麻生小学校	207日	826時間	1,292,565円
宮内小学校	201日	810時間	1,264,160円
砥部小学校	210日	810時間	1,169,708円
広田小学校	210日	865時間	1,415,825円
砥部中学校	210日	920時間	1,404,627円
合計	1,038日	4,231時間	6,546,885円

自己評価	B	評価理由	校務支援ソフトウェアの活用やスクール・サポート・スタッフの配置等により教職員の業務負担軽減に努めた。
方向性	拡大		

課題と取組み

教職員の負担軽減策として、校務環境の改善に努めているが慢性的な時間外の解消に繋がっていない。今後さらなる教職員の在校時間の縮減を図るため、勤務時間の管理や調査分析を進め、業務の効率化及び地域連携事業の推進などにより教職員の働き方改革を進める。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	学校教育課	担当係	学校教育係

目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。
主要施策	豊かな心を育む教育の推進

事業№	8	事業名	いじめ・不登校等対策事業	決算額	3,203,206円
事業目的	いじめ、不登校等の諸問題に対応するため、相談員等の体制整備を図り、保護者や児童生徒への相談、教職員への指導助言を行い、児童生徒の健全育成を図る。				

取組内容及び成果

1　ハートなんでも相談員の配置　２人　※小学校のみ

⑴　派遣日数　140日

⑵　勤務時間　560時間　※4校巡回

⑶　費用　581,845円

	6年度	5年度	増減
相談件数	396件	563件	▲ 167件

2　スクールカウンセラーの配置　１人（県より派遣）　※中学校のみ

⑴　配置日数　39日

⑵　相談人数　延べ262人

	6年度	5年度	増減
相談件数	262件	300件	▲ 38件

3　スクールソーシャルワーカーの配置　２人

⑴　配置日数　211日

⑵　相談件数　98件

⑶　費用　2,252,414円

		6年度	5年度	増減
相談件数	小学校	39件	78件	▲ 39件
	中学校	59件	105件	▲ 46件

4　Q-Uアンケート調査の実施

標準化された心理検査「Q-Uアンケート」を実施し、生徒の状況を把握するとともに、学級経営の健全化に努めた。

⑴　費用　368,947円

5　サポートルーム

砥部中学校にサポートルームを開設した。麻生小学校、砥部小学校サポートルームと同様に不登校児童の居場所の確保に努めた。

自己評価	B	評価理由	スクールソーシャルワーカー等の専門的知識を持った相談員を配置することで、いじめや不登校で悩んでいる児童生徒、保護者及び教員からの相談に適切に対応した。

方向性	拡大

課題と取組み

不登校の児童生徒が登校し易い環境整備を図り、多様な対応を可能とするため、サポートルームの内容を充実させるとともに、宮内小学校でのサポートルーム設置に向け、関係者と連携を図り取り組む。また、長期欠席を防ぐためには早期での対応が重要となっていることから、相談体制の維持だけではなく、相談員の質の向上を図るとともに、学校間での情報共有及び連携を強化する。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	学校教育課	担当係	総務係

目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。
主要施策	豊かな心を育む教育の推進

事業№	9	事業名	山村留学センター運営事業	決算額	28,304,387円

事業目的

人口減少や地域で固定化する人間関係など、小規模校が抱える課題の解消を図るとともに、豊かな自然環境の中での共同生活、体験活動を通じて「心豊かでたくましい子ども」の育成を図る。

取組内容及び成果

県内外から小学生を受け入れ、山村留学センターでの集団生活や様々な自然体験・勤労体験・地域住民との交流を通して子どもたちの育成を図った。

1　留学児童

入所児童の状況

学年	２年	３年	４年	５年	６年	計	前年比
男子	0人	0人	4人	3人	1人	8人	2
女子	2人	2人	2人	4人	2人	12人	5
計	2人	2人	6人	7人	3人	20人	7

(出身地別内訳)
岩手県１人　東京都２人　千葉県１人
埼玉県２人　大阪府１人　京都府１人
愛媛県１２人　　計２０人

2　収支決算書　※正職員人件費を除く　　単位：円

年度	６年度	５年度	差引増減
歳出	28,304,387	19,031,901	9,272,486
歳入	8,064,140	5,391,135	2,673,005

3　山村留学センター運営協議会

山村留学事業の円滑な実施及び振興充実を図るため、地域、PTA、学校関係者等で構成する協議会を開催した。

・第１回　７月１８日(木)　現状報告等
・第２回　２月２１日(金)　事業報告、次年度受入状況報告

4　山村留学センター屋根・外壁改修工事設計委託業務　1,760,000円

経年劣化により、令和7年度に改修を要するため、設計を行った。

自己評価

B

評価理由

広報活動等により20人の留学児童を確保した。このことで、小規模校が抱える課題である多様な人間との関りを持つことができ、仲間づくりや学習活動の充実を図ることができた。また高市地区、広田地区だけでなく砥部地区との関わりをもつことができ、体験活動を充実させることができた。

方向性

維持

課題と取組み

令和7年度より、感染症への対応のための空部室を確保するため、定員数を見直し16人とした。物価の高騰及び受入人数減少により、居住費の見直しを検討する。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	学校教育課	担当係	学校教育係

目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。
主要施策	たくましく生きる子どもの育成

事業№	10	事業名	教育活動支援事業	決算額	3,824,475円
事業目的	小中学校が校外で実施する各種教育活動に要する経費に対し、補助金を交付し、もって砥部町の教育振興、心豊かで潤いのある充実した生活の創造を図る。				

取組内容及び成果

1　少年自然の家利用助成事業　1,809,250円

実施場所　小学校　大三島少年自然の家

中学校　大洲青少年交流の家

学校区分	年度	一般	要・準要保護	特支奨励対象	補助金額
小学校	6年度	145人	28人	1人	1,051,105円
	5年度	173人	12人	2人	850,654円
	4年度	141人	23人	2人	788,569円
中学校	6年度	133人	30人	1人	758,145円
	5年度	163人	23人	1人	493,526円
	4年度	141人	23人	3人	434,651円

2　選手派遣費交付事業　2,015,225円

大会名	補助金額	備考
中学校総合体育大会	1,017,127円	地区大会267人、県大会69人、四国大会6人
全日本吹奏楽コンクール	100,660円	県大会　47人
中学校新人体育大会	710,598円	地区大会　158人、県大会　45人
全日本アンサンブルコンテスト	186,840円	地区大会　33人　県大会　12人

自己評価	B	評価理由	小中学校の集団学習活動は338人の児童生徒が、中学校の総合体育大会、新人大会等は637人の生徒が参加した。児童生徒が参加しやすい環境の整備に向けて、学校活動に対し適切に支援を行った。
方向性	維持		
課題と取組み	現行の取り組みを継続して実施する。		

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	学校教育課	担当係	学校教育係

目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。
主要施策	たくましく生きる子どもの育成

事業№	11	事業名	保健対策事業	決算額	7,789,101円
事業目的	児童生徒及び教職員が、心身ともに健康で学校生活を送ることができるよう、病気等の早期発見・予防につなげる。				

取組内容及び成果

1　児童生徒健康診断

学校保健安全法に基づき、定期健康診断、学校医による各種検診（内科・歯科・眼科・耳鼻咽喉科）を実施した。また、学校保健委員会を組織し、児童生徒の健康保持、増進を図った。

⑴　費用

・学校医・学校薬剤師報酬　780,000円　出向料・技術料（検診）　1,853,500円

・児童生徒健康診断委託料　3,104,109円　健康手帳印刷費　195,800円

・伊予地区結核対策委員会　31,700円

⑵　検査項目　尿、心電図、モアレ検査、小児生活習慣病予防健診、胸部X線検査、食事生活調査

2　教職員健康診断

⑴　費用　教職員健診委託料　1,740,046円　ストレスチェック委託料　11,946円

⑵　検査項目　基本検査、尿、心電図、血液、眼底、胃がん、大腸がん、ストレスチェック

3　教室の開催

生命誕生のしくみや生命の連続性について理解し、自他共に生命を大切にしようという気持ちを深めるため、思春期教室を開催した。

⑴　講師　県立医療技術大学　中越利佳、井上明子

⑵　開催内容

	実施日	演　　題	参　加　者
麻生小学校	5月28日	「生きているだけで100点満点!!~すてきないのち・輝くいのち~」	5年生69人、教職員
宮内小学校	6月3日	「命の誕生」	5年生69人、教職員
砥部小学校	5月21日	「生命の誕生」	5年生29人、教職員
広田小学校	6月4日	「思春期の心とからだ」	5・6年生12人、教職員
砥部中学校	6月21日	「中学3年生のあなたに伝えたいこと　性を大切に」－大切な自分と相手を守るために－	3年生158人、教職員、保護者
	2月7日	「生命誕生・男女交際」	1年生153人、教職員

⑶　費用　思春期教室講師謝礼72,000円(麻生・宮内・砥部・広田小学校、砥部中学校)

自己評価	B	評価理由	児童生徒、教職員の健康診断を実施するとともに、自他共に生命を大切にしようという気持ちを深めるための思春期教室を実施し、心身ともに健康な学校生活を送るための環境を確保した。

方向性	維持
課題と取組み	現行の取り組みを継続して実施する。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	学校教育課	担当係	学校教育係

目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。
主要施策	たくましく生きる子どもの育成

事業№	12	事業名	運動・体力向上推進事業	決算額	294,989円
事業目的	子どもの心身の健康や体力の向上を図り、楽しさや喜びを味わうことのできる体育の授業やクラブ活動、運動部活動の充実を図る。				

取組内容及び成果

1　小学校水泳大会、陸上競技大会

⑴　水泳大会（6年生）

・開催日　7月12日

・場所　宮内小学校

・参加人数169人（うち標準記録突破者数　10人、新記録達成者　0人）

・費用　192,989円（消耗品、自動車借上料）

⑵　上位大会の結果

・伊予地区陸上大会入賞者　17人、リレー入賞　4チーム

・県陸上大会（伊予地区４位以上）出場者　14人、リレー　3チーム

・費用　102,000円（自動車借上料）

2　中学校運動部活動

⑴　運動部数（部員数）19部（295人（男子　176人/女子　119人））

⑵　種別　軟式野球、ソフトボール、ソフトテニス、バスケットボール、バレーボール、卓球、剣道、柔道、陸上競技、バドミントン

⑶　砥部町立中学校における運動部活動の方針

生徒及び教職員双方の負担を考慮し、持続可能な運動部活動の方針を示した。

・休養日　平日週１日、土日曜１日以上

・活動時間　平日２時間、休業日３時間程度

自己評価	B	評価理由	水泳大会、陸上大会の練習を通じて、体力向上を図った。また、各校においては体力向上推進計画に基づき、各校の課題に取り組んだ。 また、学校で取り組んだ運動記録を県内小学校で競うえひめ子どもスポーツＩＴスタジアムに参加し、麻生小10項目、宮内小34項目、砥部小6項目、砥部小3項目に参加し、うち麻生小2項目、宮内小2項目が入賞した。

方向性	維持
課題と取組み	今後、中学校部活動の地域展開により、学校内における運動機会の減少が予測さることから、学校外における活動機会が提供できる地域環境の整備に関係機関と協力して取り組む。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	学校教育課	担当係	学校教育係

目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。
主要施策	たくましく生きる子どもの育成

事業№	13	事業名	キャリア教育推進事業	決算額	－

事業目的

中学２年生を対象に、地域での職場体験学習を通じ、郷土への理解を深めるとともに、生徒のコミュニケーション能力や勤労観を育み、社会性を涵養する。

取組内容及び成果

1　えひめジョブチャレンジU-15事業

砥部町教育委員会に登録されている協力事業所等で職場体験学習を実施した。

⑴　実施日　11月25日～11月29日の5日間

⑵

		６年度	５年度	４年度
参加人数		156人	164人	161人
協力事業者	計	61	57	52
	サービス業	25	20	21
	建設・不動産業	4	2	3
	製造業	3	3	4
	流通小売業	9	11	7
	園・学校等	12	13	9
	官公庁	8	8	8

自己評価

A

評価理由

昨年度より4社多い61社の協力を得た。その中で5日間通して受け入れてくれた事業者が11者増加し、29社となるなど、より充実した職場体験学習によって、生徒の勤労観を育むことができた。

方向性

維持

課題と取組み

引き続き受入事業所を維持するとともに5日間通して受け入れてくれる事業者の増加に取り組む。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	学校教育課	担当係	総務係・学校教育係

目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。
主要施策	たくましく生きる子どもの育成

事業№	14	事業名	外国語教育推進事業	決算額	14,125,230円
事業目的	外国語教育を充実させて、コミュニケーション能力を育成する。				

取組内容及び成果

1　外国語指導助手の配置

外国語指導助手を３人配置し、外国語活動や英語教育、国際理解教育を充実させた。

⑴　報酬等（３人分）　13,939,230円

⑵　派遣時間【小学校】9:00～16:00【中学校】9:00～16:00

【保育所・幼稚園】8:30～14:00　※認定こども園含む。

⑶　派遣日数延べ日数

年度	保・幼	小学校	中学校	合計
６年度	15日	404日	139日	558日
５年度	21日	403日	139日	563日

2　中学生英語検定料の助成

中学生を対象に英語検定料の一部（検定料の２分の1以内、上限2,000円、１年度に１度限り）を助成し、英語検定試験にチャレンジすることで、英語能力の向上を図った。

令和６年度から、再受験者も補助対象とした。

⑴　対象者　英検３級以上を受験した町内に住所を有する中学生の保護者　93人

⑵　交付実績　186,000円

⑶　受験結果

年度	区分	準１級	２級	準２級	３級	合計
６年度	受験者	0	2	34	57	93
	合格者	0	0	17	47	64
	合格率	0%	0%	50%	82%	69%
５年度	受験者	0	2	28	49	79
	合格者	0	1	15	41	57
	合格率	0%	50%	54%	84%	72%

自己評価	B	評価理由	英語検定料補助事業については、令和６年度から再受験者も補助対象としたことから受験率は低下したが、受験者数が79人から93人、合格者数は57人から64人と、チャレンジする生徒が増加した。

方向性	維持

課題と取組み

県学力向上推進3か年計画において、市町の取組みとして、中学生の英検３級取得のための機会確保と英語力向上に向けた取組みの充実を挙げている。また、6年度から高校入試において、新たに「特色入学者選抜」が導入され、一部の学校では出願資格に英検取得又は同等の資格を求めており、受検しやすい環境を整備し、英検受験者と合格者の増加に取り組む。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	学校教育課	担当係	学校教育係

目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。
主要施策	たくましく生きる子どもの育成

事業№	15	事業名	部活動地域移行事業	決算額	80,000円
事業目的	生徒数の減少に伴い学校単位での持続が困難になりつつある部活動と教職員の労働時間の減少のため、部活動を地域スポーツクラブ等に移行する。				

取組内容及び成果

1　地域部活動検討委員会

中学校における部活動の段階的な地域移行について検討するため、「砥部町地域部活動検討委員会」を設置した。令和８年度以降の学校部活動について平日は当面継続し、休日は実施しない方針を決定した。

⑴　委員数　　12名

⑵　開催回数　２回（８月と３月）

2　アンケート調査の実施

中学校１・２年生の内部活動に所属している者、その保護者を対象に部活動に関するアンケート調査を実施した。

⑴　調査期間　令和６年９月17日～令和６年10月４日

⑵　調査方法　調査用Webフォームから回答

⑶　調査結果　中学生回答者数　205人（回答率83%）

保護者回答者数　144人

自己評価	C	評価理由	具体的な方向性を見出すことができず、取り組みが遅れている。

方向性	維持

課題と取組み

令和7年度中に、国の取組方針を反映した今後の具体的な取り組み方針を示すとともに、町としての推進計画を策定する。関係機関と協力して取り組む必要がある。

また、教職員が関わる部活動そのもののあり方についても検証し、休日だけでなく平日における部活動への対策として、関係者の協力を得て外部講師の確保に取り組む。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	学校教育課	担当係	総務係

目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。
主要施策	教育力の向上

事業No.	16	事業名	教職員研修促進事業	決算額	―

事業目的

町又は学校独自に研究授業や研修を実施し、教職員の指導力向上、綱紀保持及び服務規律の徹底を図る。

取組内容及び成果

1　校内研修会の実施

年度	種別	麻生小	宮内小	砥部小	広田小	砥部中
R6	開催回数	6回	4回	6回	4回	3回
	延べ参加者数	150人	80人	130人	42人	90人
R5	開催回数	4回	6回	5回	2回	2回
	延べ参加者数	92人	225人	100人	12人	60人

[

※外部講師招致研修のみ

⑴　普通救命講習（講師：砥部消防署　AED使用方法等）

⑵　人権・同和教育研修（講師：県総合教育センター）

⑶　コミュニティースクール研修会（講師：町社会教育課）

⑷　キャリアアップ・フォローアップ研修（講師：中予教育事務所指導主事）

2　外部講師を招へいせず実施した研修等

ICT活用研修　道徳科の評価　特別支援教育（配慮を要する児童）　学力向上

コンプライアンス研修　研究授業　情報教育研修　水泳授業研修　など

自己評価	B	評価理由	各学校が工夫をこらして研修を行うとともに、県教委や教育関係機関が実施する研修会等に参加するなど、指導力向上のための研修を行った。

方向性	維持

課題と取組み

現行の取り組みを継続して実施する。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	学校教育課	担当係	学校教育係

目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。
主要施策	教育力の向上

事業№	17	事業名	学力向上推進事業	決算額	237,666円
事業目的	教育・学習指導の課題を明らかにし、今後の教育内容の改善及び学力の向上を図る。				

取組内容及び成果

1　砥部町学力向上推進委員会

町内児童生徒の学力向上を目的に、全国学力・学習状況調査等の調査結果及び各校が実施する学校評価の分析を行うとともに、推進教員が先進校視察による報告会を行い、各校においては授業研究会を行った。

⑴　開催回数　４回（委員会１回、実践活動部会３回）

2　学力診断テストの実施

町内児童生徒の学習定着を判断するため、町単独予算での学力診断テストを実施した。

⑴　対象

・中学校　　１年生（国語、数学、社会、理科）

　　２～３年生（国語、数学、社会、理科、英語）

⑵　経費

・中学校　237,666円

3　家庭学習の習慣化と時間の確保に係るリーフレット作成、配布

自己評価	B	評価理由	各種学力調査の分析結果を基に、町学力向上推進委員会実践活動部会で学校間の情報交換並びに重点取組の検討を行うなど、町全体の取組強化が図られた。

方向性	維持
課題と取組み	学力向上の取組みとして、「家庭学習の習慣化と時間の確保」を推進する啓発資料を児童生徒や保護者に配布しているが、自己の意識向上までには至っていない。 資料の配布だけでなく、学校におけるあらゆる機会を利用して、保護者への啓発や児童生徒への意識付けに取り組む。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	学校教育課	担当係	学校教育係

目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。
主要施策	教育力の向上

事業№	18	事業名	情報教育推進事業	決算額	5,565,436円
事業目的	コンピューターに慣れ親しみ、情報や情報手段を主体的に選択し活用していくために必要な情報活用能力を育成し、児童生徒の確かな学力の定着向上を図る。				

取組内容及び成果

1　GIGAスクール構想への対応

タブレット端末を活用した授業の支援や教職員への研修、また教材作成等の支援ができる支援員を配置するなど、本町のICT教育を推進した。

⑴　ICT支援員の配置（１人）　3,089,350円

≪参考≫

タブレット端末総台数　1,817台

・小学校　1,169台

・中学校　641台

⑵　愛媛新聞forスタディの活用　660,000円

子ども用デジタル版新聞を活用し、社会情勢への関心や新聞を読むことで情報活用能力の育成を図った。

⑶　愛媛県学習支援システム（EILS）の活用　300,000円

デジタル版のテストやドリルなど実施できるシステムを活用し、効率的な学習活動に取り組んだ。

2　デジタル教科書の活用

文部科学省提供教材を含め、一部の教材でデジタル教科書を導入した。

⑴　小学校　1,434,576円

英語（5・6年学習者用）、算数（5・6年学習者用、1～6年指導者用）、社会（5・6年学習者用、5・6年指導者用）、国語（1～6年指導者用）

⑵　中学校　81,510円

英語（1～3年学習者用）、数学（1～3年指導者用）

自己評価	B	評価理由	ICT支援員の配置を行い、タブレットやデジタル教科書などのデジタル教材の活用に取り組んだ。

方向性	維持
課題と取組み	児童生徒及び教職員のICT機器の活用能力は向上しており、インターネットを介してあらゆる情報に触れる機会も増加していることから、適正な情報収集や活用能力及び情報モラルに関する指導に取り組む。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	学校教育課	担当係	総務係

目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。
主要施策	教育環境の整備

事業№	19	事業名	学校間連携推進事業	決算額	―
事業目的	校長会等を通じ、学校間及び教育委員会で情報を共有し、問題の解決や未然防止に当たり、健全な学校運営を図る。				

取組内容及び成果

1　校長会の開催

学校行事や学校運営、また教職員による不祥事防止策などの共通認識を図るため、中予教育事務所（管理主事）を交えて会議を開催した。

⑴　開催頻度　3回/年

・学校行事について
・校務用パソコン及びタブレットの更新について
・不登校対策における学校間連携について
・学校等欠席者・感染症情報システムの導入について
・修学旅行、自然の家、長期休暇中の過ごし方等学校経営について　など

2　行事打合せ会

各種行事における学校と教育委員会事務局との連携を密にするため、奇数月に1回開催した。

⑴　開催回数　6回（5月、7月、9月、11月、1月、3月）

3　共同学校事務室の運営

拠点校を砥部中学校とする「砥部町共同学校事務室」を形成している。事務長を地域長とし、構成校の学校事務を組織的に処理することにより、学校事務の平準化と効率化を進めた。

・人事異動に伴う諸手当の認定
・給与管理表の確認
・年末調整
・期末勤勉、査定昇給
・就学援助申請関係
・人事異動関係

自己評価	B	評価理由	校長会における情報の共有及び各種取組における指導助言を適切に行うことができた。また、行事打合せ会を毎月開催から各月開催することで、教頭の事務負担の軽減を図った。

方向性	維持
課題と取組み	現行の取り組みを継続して実施する。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	学校教育課	担当係	総務係

目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。
主要施策	教育環境の整備

事業№	20	事業名	学校施設整備・維持管理	決算額	308,550,334円
事業目的	校舎等の学校施設を適切に管理し、安全・安心な学習環境を整備する。				

取組内容及び成果

1　小中学校管理費　（単位：円）

	人件費	消耗品費	光熱・燃料費	管理委託費	工事・修繕費	その他
麻生小	0	2,168,250	7,730,840	2,472,775	2,336,663	3,573,749
宮内小	0	1,953,212	5,918,198	3,470,031	29,569,900	4,060,062
砥部小	0	1,871,928	5,233,780	2,791,592	1,536,126	4,085,606
広田小	0	905,108	2,428,695	5,359,708	9,682,318	2,148,868
トイレ改修	0	0	0	16,115,000	136,006,000	0
人件費	16,886,858	0	0	0	0	0
小学校計	16,886,858	6,898,498	21,311,513	30,209,106	179,131,007	13,868,285

	人件費	消耗品費	光熱・燃料費	管理委託費	工事・修繕費	その他
砥部中	4,343,719	3,633,673	13,068,248	9,026,309	2,051,787	8,121,331
中学校計	4,343,719	3,633,673	13,068,248	9,026,309	2,051,787	8,121,331

2　主要事業（再掲）　※50万円以上の工事のみ。

⑴　麻生小学校

・プールろ過機電磁弁等工事　662,860円

・雲梯新設・遊具撤去工事　786,500円

⑵　宮内小学校

・プール改修工事　26,988,000円

・汚水管改良工事　1,023,000円

⑶　広田小学校

・校舎等改修工事　8,800,000円

3　トイレ改修事業

宮内小学校及び広田小学校のトイレ洋式化・乾式化工事を実施（工事費136,006,000円）

麻生小学校トイレ改修工事設計業務を委託により実施。（事業費　10,340,000円）

自己評価	B	評価理由	予定していた事業を年度内に終えることができた。また、突発的な修繕にも学校活動への影響を与えることなく対応した。

方向性	維持

課題と取組み

建物機能の老朽化により学校施設の改修が必要となっている。

今後においても、財政負担の軽減を図りながら、計画的に施設改善を実施するとともに将来を見通して、施設の効率的な管理及び活用について検討する。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	学校教育課	担当係	総務係

目標	未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちを実現します。
主要施策	教育環境の整備

事業No.	21	事業名	学校安全対策事業	決算額	150,128円
事業目的	子どもが安心して、学校生活等を営む環境を確保する。				

取組内容及び成果

1　防犯対策事業

凶悪犯罪から子どもを守るため、児童生徒の見守り活動を中心とした防犯活動を実施した。

⑴　青色防犯パトロール　各校１～４回/月　早朝・放課後実施

⑵　防犯ブザー配布（小学校新１年生）　配布個数　175個

⑶　スクールガード養成講習会　教職員、PTA役員等　40人参加（講師：松山南警察署　生活安全課長）

2　学校防災力強化事業

⑴　砥部町防災教育推進連絡協議会

近年激甚化している大雨や大地震等の災害に備え、避難所となる学校の防災力強化を図るため、災害時の各学校の運営体制の共有や、避難所運営の再確認など、防災力及び避難所運営能力の向上を図った。

（参加者　17人）　町内公立・私立保育所、幼稚園、認定こども園、小・中学校、松山南高校砥部分校、町防災・避難所担当課、学校教育課など

3　学校防災教育実践モデル地域研究事業（宮内小学校）

県委託事業である標記事業について、宮内小学校を拠点校とし、学校の防災力の強化を図るとともに、消防や警察、地域防災士など関係機関との連携強化にも努め、宮内校区を中心とした、総合的な防災力の向上と継続的な関係機関との連携の構築を行った。

⑴主な取組

・実践委員会（年３回実施）　・防災マップの作成　・防災参観日の実施

・町総合防災訓練への宮内小学校での開催と全校児童の参加

・少年消防クラブの創設　など

自己評価	A	評価理由	学校の安全対策事業として、通学路の登下校時の見守りや、青色防犯パトロールなど防犯活動に努めたほか、公立小中学校・保育所・幼稚園で行う防災教育推進連絡協議会を、今年度は私立幼稚園・保育所も含めて実施し、町全体で関係機関との防災力強化と連携を図った。また、県委託事業であるモデル地域研究事業を今年度受託し、宮内小学校において、消防や自治体、地域防災士や保護者などの連携により実践的な防災教育を行った。またその成果を各学校等へ普及することにより、町全体の学校安全の強化を図った。

方向性	維持
課題と取組み	学校安全は「防災」「交通安全」「防犯」と多岐にわたり、安全対策については社会の様態とともに絶えず変化している。対策には終わりは無く、関係機関との緊密な連携をとり、臨機応変の対応と安全意識の維持向上を図る。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	社会教育課	担当係	社会教育係

目標	身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。
主要施策	青少年の健全育成

事業№	22	事業名	青少年健全育成事業	決算額	962,194円
事業目的	青少年の非行を防止するとともに、社会への参画意欲や自立への意欲等を促進する。				

取組内容及び成果

1 青少年育成センター事業

教育委員会に事務局を置き、補導員1人及び補導委員34人を中心に、青少年に関する相談事業や登校指導・街頭補導等を行い、青少年の健全育成、非行防止のための活動を行った。

・定例補導委員会 12回（１回/月）、登校指導（58回）、街頭補導（48回）

2 とべっ子志縁倶楽部（ボランティア事業）

小・中学校放課後の学習支援活動や登下校の見守り活動、読書支援活動を行った。

・ 会員数：23人 ・ 放課後学習講座（学習指導）　砥部中学校　２回/週

・ 放課後わくわくクラブ（学習指導）　麻生・宮内・砥部小学校　１回/週

・ 登下校見守り活動　最寄りの場所又は中学校指定の場所で随時

3 青少年健全育成事業

⑴　とべの里冒険クラブ

前年度養成した大学生のボランティアリーダーが主体となり、町内の小学校4年生～中学生を対象に砥部の魅力を知ってもらうことを目的とした活動を行った。

・小中学生：12人、ボランティアリーダー：12人(医技大5人、松大4人、愛大3人)

(実施プログラム)野外キャンプ1回、町の魅力を発信するCMづくりなどの班活動16回

⑵　ボランティアリーダー養成事業

次年度とべの里冒険クラブを企画運営する、大学生のボランティアリーダーの養成を行った。

・ボランティアリーダー数：9人（医技大4人、松大5人）

(実施プログラム)野外キャンプ講座、インタープリター研修、班活動演習 など

⑶　とべ焼博士事業(3年継続事業)

砥部町、砥部焼への愛着と誇りを醸成し、将来の砥部町を担う人材を育成するため、町内在住の小学3～6年生を対象に「とべ焼体験学習」を実施した。

・体験学習事業参加者：13人

(実施プログラム)施設見学、ろくろ・手びねり・絵付け体験、販売体験　など

また、学習成果や子どもたちの達成感を得るため、「とべ焼博士検定」を実施した。

・とべ焼博士検定(1級)受験者：5人　　認定者(合格者)：3人

・とべ焼博士検定(2級)受検者：5人　　認定者(合格者)：2人

自己評価	B	評価理由	補導委員・学校・警察・行政の連携による青少年の非行防止事業や、また、とべの里冒険クラブやとべ焼博士事業での体験活動事業を通して青少年の健全育成を図るなど、おおむね予定通り事業を展開することができた。
方向性	維持		

課題と取組み

ボランティアリーダー養成事業において、参加者の確保が難しくなっている。事業の目的は、とべの里冒険クラブを企画・運営するための能力を養う人材育成と、シビックプライドの醸成にあるが、プログラムの充実を図る中で学生の意欲との乖離が生じているのが理由と考えられる。今後は、学生が気軽に参加できるように事業の仕組みを変更し、事業を実施していく。。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	社会教育課	担当係	社会教育係

目標	身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。
主要施策	国際交流の推進

事業№	23	事業名	国際交流事業	決算額	2,600,000円
事業目的	海外の様々な国の文化にふれることで、国際社会に対応できる国際感覚豊かな人材の育成を図る。				

取組内容及び成果

1　国際交流サマースクールの開催

町内小学生と海外留学生等が集い、寝食を共にする１泊３日の国際交流キャンプを行った。

⑴　開 催 日：８月３日（土）～５日（月）

⑵　開催場所：旧高市小学校、陶街道ゆとり公園武道場

⑶　参 加 者：43人(町内の小学生28人)と愛媛大学の留学生６人他

⑷　事業内容

・開校式（留学生らの自己紹介、ダンスパフォーマンス　など）

・ポーランド語講座、科学実験

・自然体験プログラム（川遊び）

・花火大会

・柔道デモンストレーション　など

2　ショパンビレッジフェスティバルin砥部町の開催

ポーランドの世界的なピアニストによるピアノ演奏など、一流の音楽を町民に提供した。

⑴　開 催 日：10月27日（日）

⑵　開催場所：砥部町文化会館

⑶　来場者数：700人

⑷　事業内容

・マグダレナ・ズック氏のピアノコンサート

・ポーランドの芸術祭に招待された日本人パフォーマンス集団

「TORANOKO Performing Arts Company」のライブパフォー マンス

・屋外での世界の料理や雑貨の販売などのキッチンカーなど

自己評価	B	評価理由	小学生に国際交流の機会を提供することで、国際感覚を身に着けるきっかけとなった。また、世界的なピアニストによるピアノ演奏など、町民に向けて海外の文化にふれる機会を提供することができた。

方向性	維持
課題と取組み	長年、特定の団体が行う事業に対して補助を行ってきたが、内容が固定化し費用対効果を検証する必要が生じた。費用対効果を踏まえて社会教育の観点から多様な国際交流プログラム研究し事業化に取り組む。

教育委員会における事務の管理・執行状況　ー事業別評価表ー

所管課名	社会教育課	担当係	公民館係

目標	身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。
主要施策	ニーズに合わせた学習機会の充実

事業№	24	事業名	公民館活動事業	決算額	9,670,184円
事業目的	住民への学習の場を提供するため、子ども・成人・高齢者など幅広い世代を対象とした講座、教室等を開催する。また、多様な学習情報の発信とニーズ調査を行う。				

取組内容及び成果

1　中央公民館の事業　　事業費：5,800,458円

⑴　とべっ子文化の広場教室(23教室　受講生206人)

⑵　とべっ子ふれあい国際交流デイキャンプ(3回　延べ133人)

⑶　ワールドスタディー講座(年20回　延べ621人)

⑷　ポーランド語講座(10回　延べ47人)

⑸　英会話教室(年30回　延べ469人)

⑹　まなびや事業　こども大正琴教室(5回　延べ23人)

⑺　芸術文化フェスタ(関連事業含む) 来場者 3,129人

・発表会(25団体　289人)　・作品展示(834点　2,814人)　・囲碁・将棋大会(26人)

⑻　事業参加者等へのアンケート調査（67人）

⑼　広報紙及びホームページ等の発信件数　(55件) ※広報とべ・町HP・LINE・チラシなど

2　ひろた交流センターの事業　　事業費：42,763円

⑴　ひろた子どもあそび広場［ウォーターサバイバルゲーム、ドッジビー、キンボール、スマイルボウリング、カローリング］（５回　延べ143人）

⑵　こどもの日祭り昼食会（約160人）

⑶　地域間交流［カレー昼食会10回］（170人）

⑷　モルック体験会　(12人)

⑸　レクリエーションバレーボール大会（70人）

⑹　秋季大運動会[広小・広保・地域合同開催]　(約200人)

⑺　広田地域芸能発表会　［万歳・和太鼓・ギター・カラオケ・軽音楽 など］(150人)

3　広田ふるさとフェスタ　事業費：3,732,173円

⑴　広田からの発信　郷土芸能発表、広田バンド、高原野菜など景品付もちまき、広田地域バザー

自己評価	B	評価理由	公民館事業について、例年より早い段階での周知や、町内事業所等に直接案内を行った結果、ワールドスタディー講座やとべっ子ふれあい国際交流デイキャンプの参加者が前年度より増加した。

方向性	維持

課題と取組み

公民館の利用者は、高齢者が多く、子供や若年層が少ないため、夏休み期間中の学生への自習室開放や、宿題に取り組むまなびや事業、町内の施設や資源を利用して遊ぶ子どもあそび広場等、子供向けの事業を増やして公民館事業の魅力向上を図る。

教育委員会における事務の管理・執行状況　ー事業別評価表ー

所管課名	社会教育課	担当係	公民館係

目標	身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。
主要施策	社会教育施設の充実

事業№	25	事業名	公民館施設管理	決算額	23,181,914円
事業目的	中央公民館やひろた交流センターの利用促進を図るため、教室や発表会の開催など文化芸術活動の場を提供するとともに、安全で快適な生涯学習の場を住民に提供する。				

取組内容及び成果

1　中央公民館（体育館含む）　17,762 ,647円

【中央公民館】

	主催事業		その他利用状況（貸館）		合計	
	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
6年度	716回	6,845人	1,461回	23,572人	2,177回	30,417人
5年度	723回	7,213人	1,393回	22,459人	2,116回	29,672人
4年度	607回	5,219人	1,174回	19,349人	1,781回	24,568人

※　主催事業には、文化教室の利用実績を含んでいる。

【中央公民館体育館】

	利用回数	利用人数
6年度	1,519回	25,579人
5年度	1,583回	25,510人
4年度	1,276回	19,110人

2　千里地区公民館　1,216,879円

	主催事業		その他利用状況（貸館）		合計	
	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
6年度	0回	0人	160回	1,576人	160回	1,576人
5年度	0回	0人	179回	1,423人	179回	1,423人
4年度	0回	0人	123回	1,118人	123回	1,118人

3　ひろた交流センター　4,202,388円

	主催事業		その他利用状況（貸館）		合計	
	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
6年度	13回	462人	175回	2,762人	188回	3,224人
5年度	77回	516人	74回	2,701人	151回	3,217人
4年度	73回	487人	108回	2,869人	181回	3,356人

自己評価	B	評価理由	前年に比べ、主催事業の回数及び人数は減っているものの、貸館の回数と人数は増加しており、全体の利用人数は増加傾向にある。
方向性	維持		
課題と取組み	貸館の利用回数と利用者は増加しているが、全体的に施設の稼働率は50%以下と低い。特に休日の稼働率が低いことから、中学校部活動の地域展開の受け皿として長期休暇や休日の児童生徒の利用促進を図るなど、新たな事業展開により稼働率の向上に努める。		

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	社会教育課	担当係	社会教育係

目標	身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。
主要施策	社会教育施設の充実

事業№	26	事業名	読書活動推進事業	決算額	―

事業目的

図書館において、図書、記録等の資料を収集・保存し、利用者に提供することにより、住民の学習活動や文化活動を推進する。

取組内容及び成果

1　図書館

⑴　図書館貸出人数　30,709人

⑵　図書館貸出冊数　112,764冊（１日あたり利用者数108人／開館日数284日）

区分		６年度	５年度	４年度
貸出人数（人）		30,709	32,687	35,339
	町内	19,746	21,055	22,602
	町外	10,963	11,632	12,737
貸出冊数（冊）		112,764	122,154	132,815
	町内	69,207	75,603	81,197
	町外	43,557	46,551	51,618
開館日数（日）		284	291	282
蔵書冊数（冊）		99,339	99,800	99,748
1日平均の貸出者数（人）		108	112	125
1日平均の貸出冊数（冊）		397	420	471
電子図書館登録者数（人）累計		2,058	424	224
電子図書閲覧数（点）		35,953	4,790	2,816

⑶　図書館事業

・おはなし会（毎月第１・第３土曜日）　209人
・にこにこほっぺのおはなし会（毎月第２月曜日）　122人
・ひろたのみんなのおはなし会（毎月第１木曜日）　259人
・ブックスタート（4か月児　毎月、7か月児　奇数月）　100人
・ポップDEビブリオコンテスト2024（年１回）　19人
・図書館たんけん隊（夏休み中）　18人
・読書記録帳（登録者数）　年192人　　（現在登録者数1,127人）

⑷　電子図書館

電子図書館のIDを各小中学校に配布し、読書活動の推進を図った。

・登録者数（累計）：2,058人　・閲覧数：35,953点　・電子図書所蔵数　1,912点

自己評価	B	評価理由	町内の児童生徒全員に電子図書館のIDを配布し、１人１台端末を活用して学校や家庭で電子図書館を利用できるように環境を整備することができた。

方向性	維持

課題と取組み

電子図書館において、利用者が増加したことに伴い、図書貸出の待ち時間が長くなる課題が生じている。貸出期間を見直すなど運用について再検討を行い、電子図書館の利便性の向上を図る。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	社会教育課	担当係	社会教育係

目標	身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。
主要施策	コミュニティ・スクール導入に向けた取組

事業№	27	事業名	コミュニティ・スクール導入事業	決算額	411,808円
事業目的	未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校・家庭・地域住民等が連携協力し、地域全体で子どもたちを育む体制づくりを推進する。				

取組内容及び成果

1.コミュニティ・スクールの導入に向けた研修会

令和７年度からコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を町内全小中学校（麻生小学校はモデル校として令和６年度に導入）に導入するため、教職員等を対象とした研修会を実施した。

月　日	テーマ	講　師	参加者数
2月12日	麻生小学校研究発表	CSマイスター 西村 久仁夫 氏	93人
2月26日	東温市実践報告	東温市立北吉井小学校地域学校協働活動推進員 小椋　さやか　氏 東温市立川内中学校地域学校協働活動推進員 酒井　あい　氏	67人

2.麻生小学校地域学校協働活動

令和6年度よりモデル校としてコミュニティ・スクールを先行導入している麻生小学校において、地域と学校をつなぐコーディネーターとして地域学校協働活動推進員を委嘱し、地域と学校との連携を促進した。

自己評価	A	評価理由	麻生小学校を研究校とし、学校運営協議会の持ち方、地域との円滑な連携、地域学校協働活動における学習の成果等において、モデルケースとなるなど、大きな成果があった。また、令和７年度からの全校での運用開始につながるように導入に向けた研修会が展開できた。

方向性	維持
課題と取組み	コミュニティ・スクールを全校で運用開始する運びとなったが、制度が十分に住民に浸透していない状況である。コミュニティ・スクールと地域学校協働活動について理解してもらうために活動の様子をHPに公開するなど周知を図っていく。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	社会教育課	担当係	社会教育係

目標	身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。
主要施策	人権についての教育・啓発の推進

事業№	28	事業名	人権教育・人権対策推進事業	決算額	7,341,820円
事業目的	人権問題の解消に向けて、町民一人ひとりが様々な人権問題に対する理解を深め、人権意識の高揚を図る。				

取組内容及び成果

1　人権教育の推進・啓発

町民一人ひとりの人権意識の高揚を図るため、研修会や講座などの事業を実施した。

⑴　人権教育基礎講座：7月～9月に計６回の講座を開催　受講者数　375人（前年335人）

月日	講　　師	演　　題	人数
7月25日	伊予市立伊予小学校　教頭　樋口典子氏	アンコンシャス・バイアスについて考えよう	74人
8月1日	愛媛県立みなら特別支援学校　教諭　菊池俊昭氏	カラーユニバーサルデザインと人権	69人
8月8日	松山市立興居島中学校　教頭　藤原和憲氏	いじめの現状と人権・同和教育の推進	64人
8月22日	愛媛県警察本部生活安全部　犯罪抑止対策課長補佐 酒井真由美氏、少年対策課長補佐　猪野桂子氏	少年・高齢者が犯罪にあわないために	71人
9月5日	社会保険労務士法人ひなそよ　代表社労士　鈴木正幸氏	令和時代の人権問題を考えよう	55人
9月19日	（公財）えひめ女性財団　理事・参事　信貴正美氏	「虎に翼」の時代から100年　女性の人権を考える	42人

⑵　人権教育巡回学習会　21地区、244人参加（前年19地区、233人参加）

⑶　啓発活動　広報とべ掲載（年４回）

2　人権対策活動

生活、体調、教育および就労などの地域住民が抱える相談を広域隣保活動相談員が指導、助言及び関係機関への連絡調整を行った。

⑴　相談件数　141件（電話55件　来庁19件　訪問67件）　※　前年92件

3　人権関係研修会等への参加

大会名	開催地	参加者数
愛媛県人権・同和教育研究大会	松山市	24人
四国地区人権教育研究大会	高知県	14人
中予地区人権・同和教育研究協議会	松山市	25人
全国人権・同和教育研究大会	福岡県・熊本県・鹿児島県	14人
人権啓発土曜講座	伊予市他	27人

自己評価	B	評価理由	「人権教育基礎講座」は、昨年度よりも受講者数を増やすことができた。「人権教育巡回学習会」は、予定していた全地区で実施することができ、ＤＶＤの視聴及び意見発表だけでなく、各学校の人権に関する取組を地域住民に情報提供した。

方向性	維持
課題と取組み	現行の取り組みを継続して実施する。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	社会教育課	担当係	社会教育係

目標	身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。
主要施策	人権擁護の推進と相談体制の充実

事業№	29	事業名	人権擁護推進事業	決算額	10,164円
事業目的	人権を侵害しようとする存在から、住民を守り助けるための活動を推進する。				

取組内容及び成果

1　人権相談事業

人権擁護委員と連携し、月に一度、人権相談窓口を設置した。

・中央公民館　12回、ひろた交流センター　3回　（相談件数　1件）

2　人権の花運動

命の大切さや思いやりの心を育んでもらう活動として、人権擁護委員から贈呈された花苗を児童が育てる人権の花運動を行った。育てた花は人権啓発のため、広田地区の福祉施設や保育所等に設置した。

・事業実施対象校　広田小学校全校児童　23人

3　ネットにおける人権侵害等のモニタリング管理

新たに社会問題化しているインターネット上での人権侵害に目を向け、職員による定期的なモニタリングを実施した。

自己評価	B	評価理由	年間を通じた相談活動、学校での人権教育など、おおむね予定どおりの事業を展開することができた。

方向性	維持
課題と取組み	現行の取り組みを継続して実施する。

教育委員会における事務の管理・執行状況　ー事業別評価表ー

所管課名	社会教育課	担当係	社会教育係

目標	身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。
主要施策	男女共同参画の推進

事業№	30	事業名	男女平等教育の推進	決算額	3,300円
事業目的	性別に関わりなく社会活動に参画できるまちづくりを推進するため、住民一人ひとりが性別に捕らわれない人権尊重精神の涵養を図る。				

取組内容及び成果

1　女性の人権・男女共同参画に関する研修会

人権教育基礎講座の一環として、中央公民館において講演会を実施した。

[研修内容]

第６回（9月19日）テーマ：女性の人権、男女共同参画　参加人数42人

・対象者　区長会、議会、分館長会、老人クラブ、各小中学校教職員、各PTA
　　ほか町民

2　女性団体育成事業

町内において主に女性が中心となって活動している団体及び砥部町女性団体連絡協議会に研修の場を提供する等、側面から支援を行った。

⑴　女性の人権・男女共同参画に関する講演会の開催

・11月21日　男女共同参画推進講演会（テーマ：防災）　17人参加

⑵　ボランティア活動への支援

・芸術文化フェスタに受付や展示作品の監視のボランティア活動　９人参加

・一日食品衛生監視事業で町内事業所への監視のボランティア活動　16人参加

⑶　研修機会の提供

・男女共同参画社会づくり推進県民大会　２人参加

・えひめ婦人大会　３人参加

・砥部町人権教育基礎講座　11人参加

・砥部町人権の町づくり集会　参加

・救命講習会　12名参加

⑷　女性団体の活性化のための親睦会の支援

・料理講習会の開催　16人参加

自己評価	B	評価理由	女性の人権問題を考えるための人権教育基礎講座を開催した。また、女性団体によるボランティア活動の実施や研修機会を提供することにより、女性団体の活動活性化を図った。

方向性	維持
課題と取組み	女性団体としての活動意義を明確にし、女性の人権や社会参画に関する課題解決のための活発な活動を促すために、学習機会の提供などの支援を行う。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	社会教育課	担当係	文化スポーツ係

目標	文化・スポーツ活動により感性が育まれるまちを実現します。
主要施策	文化・芸術活動への参加促進

事業№	31	事業名	文化会館管理運営	決算額	101,092,010円
事業目的	文化・芸術活動の拠点となる場を提供し、活発な文化・芸術活動を推進する。				

取組内容及び成果

砥部町文化会館条例等に基づき、指定管理者であるアクティオ株式会社が管理運営している。

1　文化会館の利用状況

⑴　利用者数　46,320人（うち、ホール　18,855人、会議室　27,465人）

⑵　ふれあいホール稼働率　54.0%（稼働日数　187日／開館日数　346日）

区　分		６年度	５年度	４年度
利用者数(人)		46,320	60,467	45,891
	うち、ホール	18,855	26,275	23,908
	うち、会議室等	27,465	34,192	21,983
開館日数(日)		346	347	346
ホール稼働日数(日)		187	206	240
ホール稼働率(%)		54.0	59.4	69.4
利用料(円)		7,969,975	8,815,400	8,595,000

⑶　文化会館事業

・「Kimiyo Ogawa NOMAD Tour2024
　旅するバンドネオン～同行二人（DOU GYOU NI NIN）
　～小川紀美代バンドネオンコンサートVol.5～遥かなるアルゼンチンの風～」（６月）204人

・夏越ノ太鼓Ⅱ―打ち手、舞い手の華が咲くー」（６月）　385人

・砥部町合併20周年記念プレ事業
　「宝くじおしゃべり音楽館～思い出のスクリーンミュージック～」（９月）406人

・カルチャー教室等各種教室（通年）　2,701人

2　主な修繕工事等

・文化会館ﾄｲﾚ改修工事費　19,800,000円

自己評価	C	評価理由	トイレの改修等、適正に施設の維持管理に努め、利用者にとって快適で利用しやすい環境の維持に努めたが、貸館及び自主事業ともに利用者が大幅減少し利用者数が対前年度1万4千人減少した。

方向性	維持

課題と取組み

利用者数の減少に関して、臨時的かつ大規模なイベント等の有無が主な要因として挙げられる。新型コロナ感染症拡大前の状況に回復させるため、指定管理者に対しては自主事業の奨励や営業活動の強化について指導に努める。

教育委員会における事務の管理・執行状況　ー事業別評価表ー

所管課名	社会教育課	担当係	公民館係

目標	文化・スポーツ活動により感性が育まれるまちを実現します。
主要施策	文化・芸術活動を通じた交流の推進

事業№	32	事業名	学習発表会	決算額	831,368円
事業目的	文化イベントを充実させるとともに、文化交流事業の開催などにより、地域に根ざした個性豊かな文化を創造する。				

取組内容及び成果

1　芸術文化フェスタ

⑴　囲碁・将棋大会

囲碁　11月16日(土)　参加者　11人

将棋　11月17日(日)　参加者　15人

⑵　展示部門

開催日　11月16日(土)・11月17日(日)　展示数　834点　来場者　2,814人

⑶　発表会

開催日　11月17日(日)　25団体　参加者　289人

内　容　とべっ子文化の広場教室生等による芸能発表会(一般参加を含む)

教　室　大正琴　箏曲　尺八　歌謡　ギター初心者　民舞　フラダンス

一　般　ダンス　日舞　和太鼓　砥部小獅子舞　体操　オカリナ　太極拳

2　広田地域芸能発表会

開催日　3月9日(日)　出演・来場者　9グループ・150人

内　容　万歳　和太鼓　カラオケ　軽音楽　三味線　合唱　ギター演奏

自己評価	B	評価理由	芸術文化フェスタでは、発表会や作品展示等において、とべっ子文化の広場教室生を中心として、日頃の練習や教室で学んだ成果を披露する場を提供した。また、松山南高等学校砥部分校生の作品も展示し、地域住民へ町内の芸術文化活動に接する機会を提供した。

方向性	維持
課題と取組み	参加者が減少しているため、町内の個人や事業者を対象に作品の出展や、ハンドメイドマルシェへの出店・出品を募集する。また、キッチンカーの出店についても募集し、来場者の増加と会場の賑わい創出を図る。

教育委員会における事務の管理・執行状況　ー事業別評価表ー

所管課名	社会教育課	担当係	文化スポーツ係

目標	文化・スポーツ活動により感性が育まれるまちを実現します。
主要施策	文化財や地域伝統文化の保護と継承

事業№	33	事業名	文化財保護事業	決算額	10,838,572円
事業目的	文化財保護意識の啓発とともに、潜在文化財の調査研究を行い、必要に応じて文化財として指定する等、適切に文化財等を保護する。				

取組内容及び成果

1　文化財保護審議会

町内にある文化財の保存と活用を図るため、文化財保護に関する協議を行ったほか、指定候補物件の調査、研究などを行った。

⑴　埋蔵文化財包蔵地の指定について

・指定　守本窯跡（岩谷口）・下向井窯跡（五本松）

・指定に向けた調査

深田窯跡・堂成窯跡（川登）及び越智窯跡（大南）

⑵　町指定無形文化財「砥部焼」の保持者の認定について

⑶　町指定文化財の候補物件の見直しについて

2　砥部焼の歴史・文化の調査研究

本町の歴史文化の特徴の一つである砥部焼について、愛媛大学と連携するなど関係機関と協力のうえ、古文書の撮影・解読や窯跡調査など調査研究を行った。

⑴　坪内家文書の撮影・解読（愛媛大学連携協定事業）　434点　（全体約1,600点中1,100点完了）

⑵　砥部焼窯跡調査　白水窯跡など4地点（愛媛大学との共同事業）

3　町誌編さん事業

旧砥部町と旧広田村の合併から20年を迎える令和６年12月を目標に、令和3年度から合併後初の町誌編さんに取り組んだ。令和６年度は、執筆原稿の最終校正を行うとともに、町誌編さん委員会を３回開催し、『砥部町誌』を刊行した。

自己評価	B	評価理由	窯跡調査の結果に基づき、埋蔵文化財包蔵地の指定を進めた。また、愛媛大学など関係機関との連携により、窯跡調査や坪内家文書の撮影・解読など砥部焼の歴史・文化の調査研究を進めた。また『砥部町誌』を予定通り刊行した。

方向性	維持

課題と取組み

文化財の指定に向けた議論の加速化が求められている。引き続き、文化財、埋蔵文化財包蔵地の調査結果を基に指定を進めていくとともに、坪内家文書に関する報告会など、町民に対し研究結果を提供する機会を作り、住民の文化財に対する理解促進を図る。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	社会教育課	担当係	文化スポーツ係

目標	文化・スポーツ活動により感性が育まれるまちを実現します。
主要施策	文化財や地域伝統文化の保護と継承

事業№	34	事業名	地域伝統文化保存伝承事業	決算額	40,000円
事業目的	伝統芸能の保存団体等が行う保存伝承活動を支援するとともに、地域の伝統的な祭りや行事の現状及び変容の実態を把握し記録する。				

取組内容及び成果

1　伝統芸能保存伝承事業

地域において伝統芸能の保存団体等が行う保存伝承活動に対し、補助金を交付した。

(1)　交付団体数　2団体（岩谷口獅子舞保存会、総津獅子舞保存会）　40,000円

【参考】町内伝統芸能団体

団体名	
岩谷口獅子舞保存会（岩谷口）	宮内獅子舞保存会（宮内）
総津獅子舞保存会（総津）	本村獅子舞（高市）
北川毛伝統芸能保存会（北川毛）	鴨滝獅子舞（高市）
満穂万歳保存会（満穂）	高市舎儀利（高市）

自己評価	B	評価理由	コロナ禍の影響や少子高齢化による担い手の減少などで地域の祭りや行事が休止となっているが、前年度に引き続き一部団体の活動を支援した。
方向性	維持		
課題と取組み	地域指導者の高齢化等によって伝統文化の消滅が危ぶまれている。適切な支援と正確に記録を保存するため、地域や団体への人的・財政的支援を行うとともに画像や映像記録を保存する。		

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	社会教育課	担当係	文化スポーツ係

目標	文化・スポーツ活動により感性が育まれるまちを実現します。
主要施策	文化財の活用

事業№	35	事業名	文化財への理解促進	決算額	155,480円
事業目的	文化財への理解を深め、文化財に親しむ機会を図るとともに、井上正夫の資料収集及び当該資料の公開等により、気軽に学べる機会を提供する。				

取組内容及び成果

1　歴史講座の開催

砥部の文化や歴史を学んでもらうため、町民を対象とした歴史講座を開催した。

開催日	参加者数	講師	タイトル
10月26日	7人	上本隆弘	総津ししまい体験
11月2日	21人	太田由美子 森永とめ子	砥部の民話　～宮内地区～
11月24日	30人	槙林啓介	窯跡からみる砥部焼の歴史

2　ふるさと再発見紀行

中央公民館事業として、町内の文化財や史跡などを校区別に学芸員などの説明を行い巡回するふるさと再発見紀行を実施した。　・３コース　51人参加

3　文化財展示

年間を通じて、町の名優井上正夫の資料や本町で出土した埋蔵文化財の展示を行った。

⑴　井上正夫資料室（町文化会館）

・展示（展示替え2回）

【展示テーマ】　近年の寄贈・発見作品展　［令和5年10月～令和6年7月］

明治時代の井上正夫展　［令和6年7月～令和7年2月］

井上正夫会と如月忌　［令和7年2月～展示中］

・資料室所蔵ビデオテープ等のデジタル化

⑵　埋蔵文化財展示室（中央公民館）［通年］

・通谷山古墳出土　須恵器（壺、高坏）、鉄器（刀、斧）など

自己評価	B	評価理由	通年の文化財展示のほか、歴史講座や文化財の視察など体験的な活動を実施し、歴史や文化に親しむ多様な機会を提供した。歴史講座はこれまで多くの住民が参加しやすく、親しみやすい事業展開が求められており、令和6年度は新たに獅子舞体験、砥部焼の歴史に関する講座を実施した。

方向性	維持

課題と取組み

参加者アンケートでは好評だったものの、全体的に参加者が少なく、特に獅子舞体験は参加者が少なかった。今後も個々の事業の趣旨・目的・ターゲット等を明確にし、さらに事業の魅力化を図るとともに、周知方法を工夫する。

教育委員会における事務の管理・執行状況　ー事業別評価表ー

所管課名	社会教育課	担当係	文化スポーツ係

目標	文化・スポーツ活動により感性が育まれるまちを実現します。
主要施策	文化財の活用

事業No.	36	事業名	坂村真民記念館	決算額	25,271,989円
事業目的	砥部町の名誉町民である坂村真民に関する資料の収集や展示を行い、真民詩を全国に発信することにより、真民詩を後世に伝える。				

取組内容及び成果

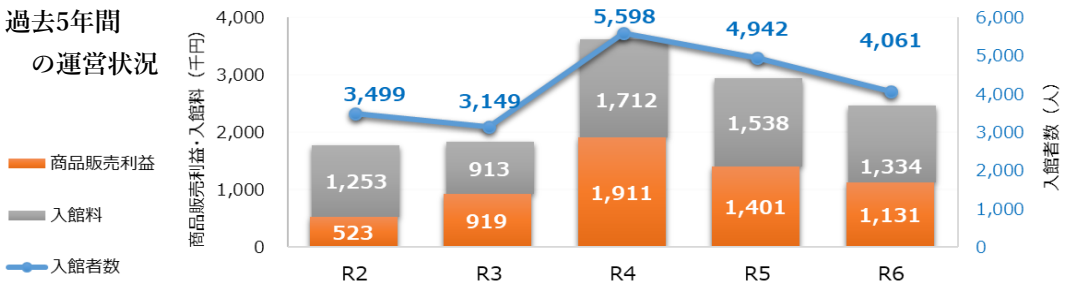
1　年間入館者数

年度	有料	無料	計
6年度	2,647人	1,414人	4,061人
5年度	3,255人	1,687人	4,942人

2　企画展（特別展）

タイトル	内　　容	期　　間	入館者数
開館12周年記念特別展 「真民さんの生き方～できるだけ、うれしいうたをつくろう～」	真民さんの前向きに生きる生き方を詠った詩を集め、「真民詩」の詩墨作品などを展示	令和６年３月２日～ 令和６年６月30日	1,910
夏休み企画展 「自分の花を咲かせよう」	小・中・高校生にぜひ読んでもらい、心の支えとなる作品を展示	令和６年７月６日～ 令和６年10月20日	998
企画展 「真民さんとたんぽぽ」	「ねがい・ねがい」と題する87編の詩から、代表的な作品を展示	令和６年10月26日～ 令和７年３月２日	1,109
開館13周年記念特別展「慈悲の心と生きる喜びを～横田南嶺老師が選ぶ真民詩の世界～」	真民の慈悲の心を持ち続け、生きる喜びを詠った作品を展示	令和７年3月8日～ 令和７年６月29日 ※入館者数は3/31までの集計	490

3　過去5年間の運営状況



自己評価	C	評価理由	令和５年度に約600人減少した入館者数は、令和６年度さらに881人減少した。それに伴い、入館料も184千円の減収となった。

方向性	維持

課題と取組み	真民ファンの高齢化等によるリピーター客の減少、事業のマンネリ化と情報発信力の弱さによる話題性が低下している。新規の来館者や若いファン獲得に向けての取組みとして夏休み企画展の魅力化を図り、小・中・高校生など若年層の来館者数の増加を目指す。また、商品売価や、入館料についても見直しをして収支の改善を図る。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	社会教育課	担当係	文化スポーツ係

目標	文化・スポーツ活動により感性が育まれるまちを実現します。
主要施策	ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

事業№	37	事業名	社会体育推進事業	決算額	2,470,907円
事業目的	誰もがスポーツに取り組みやすい環境を整備し、住民のスポーツ習慣の定着を図る。				

取組内容及び成果

1　町内各種スポーツ大会（スポーツ協会委託事業）

大会名	開催日	6年度		5年度	
ソフトテニス大会	5月19日	11チーム	88人	13チーム	105人
バレーボール大会	6月9日	19チーム	220人	17チーム	220人
卓球大会	6月23日	18チーム	149人	16チーム	226人
軟式野球大会	7月21日	17チーム	327人	17チーム	340人
ソフトボール大会	11月24日	24チーム	384人	27チーム	440人
インディアカ大会	9月8日	8チーム	45人	12チーム	64人
レクバレー大会	1月26日	24チーム	203人	21チーム	177人
テニス大会	12月8日	17チーム	129人	19チーム	140人
バトミントン大会	9月29日	30チーム	252人	30チーム	236人
計		168チーム	1,797人	172チーム	1,948人

2　スポーツ少年団交歓大会（スポーツ協会委託事業）

大会名	開催日	6年度		5年度	
女子ミニバス大会	5月4日	8チーム	103人	8チーム	93人
男子ミニバス大会	5月5日	8チーム	102人	8チーム	114人
ソフトボール大会	11月30日	3チーム	30人	3チーム	37人
		19チーム	235人	19チーム	244人

自己評価	B	評価理由	各種スポーツ大会では、昨年比151人の参加者の減少となったが、参加チーム数では4チームの減少にとどまったため、各地区での参加意向は維持できている。スポーツ少年団の参加者は微減となっているが、参加チーム数は同数となっており活動は維持できている。

方向性	維持
課題と取組み	チーム数はほぼ維持できているが、参加者が減少している。委託先のスポーツ協会と協議し、大会の参加資格の弾力化など開催方法の見直しを進め、町民一人ひとりが取り組みやすい大会の運営をおこない、住民の参加促進を図る。

教育委員会における事務の管理・執行状況　ー事業別評価表ー

所管課名	社会教育課	担当係	文化スポーツ係

目標	文化・スポーツ活動により感性が育まれるまちを実現します。
主要施策	ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

事業№	38	事業名	レクリエーションスポーツ推進事業	決算額	278,308円
事業目的	住民一人ひとりが自分に合ったレクリエーションスポーツ事業に参加し、住民同士の交流を深める機会を提供する。				

取組内容及び成果

1　クロッケー大会　　事業費：18,186円

開 催 日　5月11日（土）

開催場所　陶街道ゆとり公園多目的広場、ひろた町民グラウンド

参 加 者　18チーム　59人　（令和５年度15チーム　49人）

2　スポーツまつりinとべ　　事業費：127,435円

開 催 日　10月13日（日）

開催場所　陶街道ゆとり公園多目的広場

参 加 者		令和６年度		令和５年度	令和4年度	
綱引き		12チーム	139人	中止	16チーム	158人
	小学生の部	3チーム	36人		8チーム	72人
	一般男子の部	5チーム	56人		3チーム	30人
	一般女子の部	4チーム	47人		5チーム	56人
ペタンク		33チーム	96人		35チーム	105人
グラウンドゴルフ		32チーム	101人		14チーム	78人
スポーツウエルネス吹矢		6チーム	18人		7チーム	23人
参加者合計		83チーム	354人		72チーム	364人

3　ウォークラリー大会

雨天のため中止　　（令和５年度13チーム　54人）

自己評価	B	評価理由	クロッケー大会は年々参加チームの減少傾向が続いてきたが、6年度は3チーム増加した。5年度は雨天中止となったスポーツまつりは、綱引きの参加者が減少する一方、グラウンドゴルフの参加は一昨年より18チーム増加している。

方向性	維持
課題と取組み	熱中症や自然災害等に配慮し、大会の開催時期等を調整するとともに、地域コミュニティの参加に消極的な住民が、スポーツを通じて交流が図れるよう大会の実施内容等についても十分に検討する。

教育委員会における事務の管理・執行状況　ー事業別評価表ー

所管課名	社会教育課	担当係	文化スポーツ係

目標	文化・スポーツ活動により感性が育まれるまちを実現します。
主要施策	地域における指導者の確保及び育成

事業№	39	事業名	スポーツ指導者確保及び育成	決算額	4,731,296円
事業目的	スポーツ団体と連携して、スポーツ活動の活性化及びスポーツへの参加人口の拡大を図る。				

取組内容及び成果

1　町スポーツ推進委員

スポーツの実技指導やスポーツ活動の企画・推進等を目的にスポーツ推進委員を委嘱し、町体育事業への協力や、新しいスポーツ種目の検討、スポーツの指導等を行うための研修を行った。

⑴　町スポーツ推進委員　12人
⑵　スポーツ推進委員会　5回開催
⑶　各種スポーツ大会運営協力　４回
⑷　研修会等参加　2回

2　町スポーツ協会（連携事業）

町スポーツ協会と連携し、スポーツ大会の運営等を協会の専門部会など地域の力に任せ実施することで、スポーツ事業の企画・運営等を行う地域スポーツの担い手の確保・育成に努めた。

⑴　町スポーツ協会へ各種スポーツ大会委託(12大会)　2,470,907円

3　少年スポーツ団体の育成支援

スポーツ少年団等の活動を支援し、次世代のスポーツ推進の担い手の育成に努めた。

⑴　スポーツ少年団等育成事業費補助金（15団体）　735,100円
⑵　スポーツ少年団陶街道ゆとり公園武道場利用補助金（４団体）　481,000円
⑶　スポーツ少年団指導者育成事業費補助金（21人）　86,400円

自己評価	B	評価理由	スポーツ推進委員、町スポーツ協会それぞれの働きにより、多くの住民がスポーツに参加できる機会が生まれ、スポーツ指導者等の担い手育成を図った。6年度は中学校部活動の地域展開も視野に入れ、スポーツ少年団指導者21人に対し、指導者資格の更新費用の3分の2を補助することで、スポーツ指導者の確保と育成を図った。

方向性	維持
課題と取組み	中学校部活動の地域展開において、それに対応できる指導者の確保が求められている。資格取得を支援するなど、各スポーツ団体関係者と連携を取りながら、指導者の確保及び育成を図る。

教育委員会における事務の管理・執行状況　－事業別評価表－

所管課名	社会教育課	担当係	文化スポーツ係

目標	文化・スポーツ活動により感性が育まれるまちを実現します。
主要施策	社会体育施設等の充実

事業№	40	事業名	社会体育施設管理	決算額	17,455,572円
事業目的	安全で快適にスポーツ活動を行える環境を住民に提供する。				

取組内容及び成果

1　社会体育施設の利用状況

施設名	利用者数	利用日数
砥部中学校 グラウンド	3,650人	92日
体育館	5,271人	307日
武道場	11,722人	357日
砥部小学校 グラウンド	4,885人	260日
体育館	6,460人	228日
宮内小学校 グラウンド	5,977人	218日
体育館	13,557人	293日
麻生小学校 グラウンド	13,314人	332日
体育館	13,625人	315日
大南町民広場	8,502人	258日
ひろた町民グラウンド	872人	55日
広田小学校 体育館	607人	22日
玉谷町民体育館	427人	97日
高市町民グラウンド	160人	4日
高市町民体育館	224人	9日
合計	89,253人	

2　陶街道ゆとり公園及び田ノ浦町民広場の利用状況

施設名	利用者数	利用日数
多目的広場	17,062人	310日
テニスコート	17,754人	345日
わんぱく広場	22,716人	298日
体育館	58,638人	352日
グラウンドゴルフ場	3,244人	271日
武道場	23,021人	354日
田ノ浦町民広場	3,757人	108日
合計	146,192人	

社会体育施設は年間89,253人の利用があり、対前年比で1,015人減少した。指定管理施設は、年間146,192人の利用があり、対前年比14,651人増加した。主に体育館の利用が増加している。

3　主な修繕工事
・陶街道ゆとり公園テニスコート人工芝張替工事　10,357,600円
・陶街道ゆとり公園正面ゲート補修工事　1,287,000円

自己評価	B	評価理由	利用者の安全や利便性の確保を念頭に、修繕等適正な維持管理に努めることができている。また、指定管理者の適切な施設運営・管理により、住民に安定的かつ継続的に利用された。
方向性	維持		
課題と取組み	施設の老朽化が進んでいる各施設の設備・備品など定期的な点検と適切な修繕等により施設の長寿命化を図る。		

令和７年度【令和６年度事業】砥部町教育委員会点検評価報告書

－外部評価意見－

令和７年８月20日

評価者：古田　章

◆未来を担う子どもたちが、たくましく健やかに育まれるまちを実現します。

主要施策	子育て支援サービス等の充実

【意見】

〇幼児教育推進事業　…　町立幼稚園における幼児教育は、生涯にわたる学びや生活の基盤づくりとなる様々な活動を通し、幼児の健やかな成長を実現している。運営において、自然体験や運動・表現活動、季節感のある行事など多様な体験活動がバランスよく取り入れられており、質の高い幼児教育が実践されている。また、祖父母参観や特別支援教育周知講習会などの開催、地域資源を活用した体験活動など特色ある運営が行われた。今後も、町内小学校や保育所等との連携を図り、幼児教育の充実と小学校への円滑なつなぎが行われるよう、継続していただきたい。

主要施策	豊かな心を育む教育の推進

【意見】

〇就学援助事業　…　義務教育の円滑な実施を図るために重要な制度であり、全保護者に事業の周知を図ることは大切である。転入や家庭の経済状況の変化など随時、それぞれのケースに対応し、就学援助を必要とする保護者が円滑に手続きを行えるよう配慮されている。今後も効果的な支援が行われるよう取り組んでいただきたい。

〇奨学資金貸与事業　…　生徒の誰もが経済的な理由で夢の実現を断念することなく努力できることは、砥部町の人づくりにおいても大切なことである。今後も基金の適正な管理運用により、自己実現を目指す若者の支援を継続していただきたい。

〇特別支援教育推進事業　…　各関係機関が連携し、特別な支援が必要な児童生徒と保護者に寄り添う取組が実践されている。特に母子保健の分野との連携で早期から支援を開始することが、医療的ケア児の支援を含め就学後の適切な支援につながっている。今後も、相談活動の充実により個に応じた支援を図り、特別支援教育事業の推進に取り組んでいただきたい。

〇地域の特性を生かす教育推進事業　…　町内の各小中学校は、特色ある学校づくりを重点の一つとして学校経営を進めている。子どもたちは地域の「もの」「ひと」に触れ、地域の理解

を深めており、今後はさらにコミュニティ・スクールにおける地域との一体感も期待できる。今後も地域資源を活用した教育活動が実現するよう交付金の継続をお願いしたい。

○学校給食運営事業　…　物価高騰が家計に影響を及ぼす中、学校給食費保護者負担軽減支援事業として給食費の値上げ分を支援し、保護者の負担軽減が図られた。また、労力を惜しまず地産地消の推進に努め、適切な食育が行われた。それらを今後も継続して、栄養バランスの取れた安全・安心な給食を提供していただきたい。

○校務支援・業務改善事業　…　この事業により、教職員の働き方改革の一つとして校務環境の改善が図られた。教職員が持つ校務の支援や業務の軽減は、教職員が児童生徒に向き合う時間の確保につながり大切である。一方、教職員の児童生徒や保護者とのかかわりは多様化・複雑化しており、長時間勤務は今もなお課題である。今後も業務の効率化などを進め、教職員の負担軽減への支援の継続をしていただきたい。

○いじめ・不登校等対策事業　…　新たに砥部中学校にサポートルームが開設され、不登校生徒の居場所が確保されたことにより、多様な登校が可能となり大きな効果があった。また、スクールソーシャルワーカーなど専門家が配置され、相談活動や関係機関をつなぐ支援が行われていることは重要である。今後も、学校をはじめ関係機関が十分に連携して情報共有に努め、対象者やその保護者に寄り添った対応と支援を継続していただきたい。

○山村留学センター運営事業　…　高市地区の豊かな自然環境の中で、県内外の小学生が集団生活を送り、体験活動を通じて優しさとたくましさを育むこの事業は、たいへん貴重なものである。また、留学生が通う広田小学校にとっては、多様な人間関係や文化を育んでいる。今後も事業を継続し、心豊かでたくましい子どもを育成していただきたい。

主要施策	たくましく生きる子どもの育成

【意見】

○教育活動支援事業、運動・体力向上推進事業　…　児童生徒の集団学習活動や生徒の部活動、各種大会の参加等を通して、子どもの心身の健康や体力の向上が図られた。今後も保護者の経済的負担を軽減するとともに、児童生徒が活動しやすい環境の整備に向け適切な支援を継続していただきたい。

○保健対策事業　…　健康診断を適切に実施し、児童生徒や教職員が心身共に健康な学校生活を送ること、さらに安全な行事の実施や小児生活習慣病など病気の早期発見や予防につなげることができた。また、県立医療技術大学との連携による全小中学校での思春期教室は砥部町ならではの取組で成果を上げている。今後も継続し、子どもたちの健全育成に努めていただきたい。

○キャリア教育推進事業　…　中学2年生を対象にした「えひめジョブチャレンジU-15事業」では、受け入れ事業所が前年度より4事業所多い61事業所、5日間の受け入れは11事業所増えるなど協力体制の充実ぶりが見て取れる。今後も生徒が地元で勤労観を育み、自分が役に立つ喜びを味わうための5日間になるよう、地域の事業所への理解促進に取り組んでいただきたい。

○外国語教育推進事業　…　中学生の英語検定においては、受検者数・合格者数共に前年度を上回っており、成果を上げている。今後も情報提供の工夫や検定料の補助等を通して受検機会の確保と英語力向上の取組を継続していただきたい。

○部活動地域移行事業　…　部活動の地域移行については、生徒の選択肢の広がりや専門的な指導の充実などのメリットと、指導者や受け皿の確保などの課題があるとされる。中学校が1 校の本町では、教職員の負担軽減と社会資源を生かした地域部活動の実現、さらにはスポーツクラブとして子どもから高齢者まで町民の多くがスポーツに親しみ体力つくりをする将来像が考えられる。今後も継続して推進計画を策定していただきたい。

主要施策	教育力の向上

【意見】

○教職員研修促進事業、学力向上推進事業　…　各学校が校内研修会の充実に努め、教職員の資質・能力の向上が図られている。教師は明るく豊かな人間力、魅力的な授業で子どもを引き付ける授業力をいかに磨いていくかが重要である。教職員一人一人が夢を持ち、職務を自覚して積極的に研修が実践されるよう、今後も支援を継続していただきたい。

○情報教育推進事業　…　ICT 支援員を配置し、タブレット端末やデジタル教科書・教材の活用を進めてきた成果として、児童生徒や教職員の ICT 機器活用能力が向上した。インターネットでの情報収集や発信が一般化している現代社会では、情報を正しく見極める力やモラルが大切であり、今後も情報教育の推進を継続していただきたい。

主要施策	教育環境の整備

【意見】

○学校間連携推進事業　…　砥部町の学校教育の基本方針に基づき、各学校が学校経営で具現化を図るためには、町内の学校と町教育委員会が情報を共有し連携を密にする必要がある。一方、行事打合せ会は効率よく運営することで教職員の負担軽減に配慮された。今後も狙いの焦点化・明確化を図り共通理解が深まるよう、事業を継続していただきたい。

○学校施設整備・維持管理　…　学校施設の老朽化は避けることができないが、毎年計画的に改修が行われている。安全面の維持にとどまらず、トイレの洋式化・乾式化などよりよい環境づくりが進められている。今後も、きめ細かく現状を把握し、子どもたちが安心して生活し伸びやかに成長する場として、迅速な対応と計画的な整備の実現に努めていただきたい。

○学校安全対策事業　…　砥部町防災教育推進連絡協議会では、災害を想定しての避難所運営等具体的な取組が実践された。また、学校防災教育実践モデル地域研究事業では、宮内小学校を拠点に関係機関と連携して学校の防災力強化が図られるなど成果を上げた。今後も防犯や交通安全を含め、安全対策の取組を継続していただきたい。

◆身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します。

主要施策	青少年の健全育成

【意見】

○青少年健全育成事業　…　青少年育成センターやとべっ子志縁倶楽部による相談活動や見守り活動、放課後学習支援等、日々の献身的な取組で子どもたちの健全育成を支え続ける関係者の方々には、深く感謝したい。また、ボランティアリーダー養成事業では大学生の人材育成が行われている。今後も関係機関との連携や関係者の共通理解を図り、事業を継続していただきたい。

主要施策	国際交流の推進

【意見】

○国際交流事業　…　グローバル社会が進展する中、国際交流事業において子どもたちや町民が様々な国の文化に触れたり、日本やふるさと砥部の文化を見つめ直したりすることができる機会を提供することは大切である。今後も、国際交流の機会や一流の芸術・文化に触れる場の提供を継続し、国際感覚豊かな人材育成に努めていただきたい。

主要施策	ニーズに合わせた学習機会の充実

【意見】

○公民館活動事業　…　公民館活動は地域住民のコミュニティとして重要な役割を持つ。中央公民館やひろた交流センターの事業では新規事業のほか、これまでの取組に工夫や改善を加え、周知にも力を入れるなどして前年度以上の参加者を得た。広田交流センターの事業では、新規事業を含め魅力ある事業を目指して成果を上げている。今後も、それぞれの年齢層のニーズを開拓し、住民とともに楽しく取り組んでいただきたい。

主要施策	社会教育施設の充実

【意見】

〇公民館施設管理、読書活動推進事業　…　公民館等の社会教育施設は、町民の生涯学習の場として大きな役割を果たしている。さらに公民館においては、子どもの居場所としての活用の工夫など、今後の利用促進が期待される。また、読書活動推進事業では、電子図書館の利用増大が顕著であり、環境づくりの成果が表れている。今後もそれぞれの事業を継続し、利便性の向上と利用促進を図っていただきたい。

主要施策	コミュニティ・スクール導入に向けた取組

【意見】

〇コミュニティ・スクール導入事業　…　学校運営協議会により学校と地域が一体となって特色ある学校づくりを目指すコミュニティ・スクールは、「地域とともにあるみんなの学校」としての存在意義がとりわけ大きい。校長の経営ビジョンを地域住民が共有し、一体となって地域の子どもを育てることは、学校を核とする地域づくりにもつながる。麻生小学校での取組がよいモデルケースとなり、ほかの校区における進展が期待される。今後も事業を継続し、コミュニティ・スクール運営の充実を図っていただきたい。

主要施策	人権についての教育・啓発の推進

【意見】

〇人権教育・人権対策推進事業　…　誇りある地域、住み続けたいと思う魅力的なまちづくりを進める本町において、誰もが差別に気付き、人権問題の解消に向けて理解を深め、町民一人一人の人権意識の高揚を図る本事業は重要な役割がある。人権教育基礎講座や人権教育巡回学習会は、内容を吟味しながら実践を積み重ねていることが大切であり、人権教育の基盤となっている。今後も事業を継続し、町民の心に響く学習を目指していただきたい。

主要施策	人権擁護の推進と相談体制の充実

【意見】

〇人権擁護推進事業　…　SNS での誹謗中傷をはじめ、インターネット上における人権侵害は、ますます大きな社会問題となっている。人権擁護委員による人権相談事業や人権尊重を育む活動等を通して、今後も町民への意識の啓発を継続していただきたい。

主要施策	男女共同参画の推進

【意見】

○男女平等教育の推進　…　今年度も各社会教育関係団体や砥部町女性団体連絡協議会に呼びかけて人権教育基礎講座に位置付けた研修会やその他の研修機会の提供が行われた。今後も女性団体の育成事業を継続し、主体的な活動ができるよう支援していただきたい。

◆*文化・スポーツ活動により感性が育まれるまちを実現します*

主要施策	文化・芸術活動への参加促進

【意見】

○文化会館管理運営　…　砥部町文化会館では、トイレの改修が行われるなど利用者目線に立った維持管理が行われている。一方、指定管理者による主催事業の企画・運営や町内外への情報発信等においては、他市町でも同様の課題がある。指定管理者との共通理解を図り、今後も町民の潤いのある生活の拠点として適切な維持・管理を継続していただきたい。

主要施策	文化・芸術活動を通じた交流の推進

【意見】

○学習発表会　…　生涯学習においては互いの発表の場があることが重要で、ここでの交流がさらなる学習意欲にもつながる。県立松山南高等学校砥部分校の作品展示を含め、前年度よりも参加団体が増えるなど、運営の熱意と努力がうかがえる。今後も幅広く参加を呼びかけるなど、楽しく有意義なものになるよう工夫し、継続して取り組んでいただきたい。

主要施策	文化財や地域伝統文化の保護と継承

【意見】

○文化財保護事業　…　文化財保護審議会による指定候補物件の調査・研究では、守本窯跡・下向井窯跡が指定され、深田窯跡・堂成窯跡・越智窯跡が指定に向けて調査された。また、愛媛大学との連携により本町の誇りでもある砥部焼の歴史・文化の調査研究が継続して進められた。さらに、町村合併後初の砥部町誌が刊行された。今後もふるさと砥部町の貴重な文化財の保存や歴史と文化の理解・継承に努め、町民に周知していただきたい。

○地域伝統文化保存伝承事業　…　高齢化と後継者不足等により伝統文化の継承が困難になる中、伝統芸能や祭り・地域行事の調査と記録に取り組んでいることは大変重要である。今後も事業を継続し、保存団体への支援をしていただきたい。

主要施策	文化財の活用

【意見】

〇文化財への理解促進、坂村真民記念館　…　文化財への理解促進では「歴史講座」や「ふるさと再発見紀行」の開催など、体験的な活動を通して町民が文化や歴史に触れる機会が提供されており、その内容にも工夫がある。また、坂村真民記念館においては、４本の特別展・企画展が開催され子ども向けの内容も用意された。どちらの事業もふるさとを愛し誇りに思う重要な学習機会であり、今後も積極的に情報発信をしていただきたい。

主要施策	ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

【意見】

〇社会体育推進事業、レクリエーションスポーツ推進事業　…　どちらの事業もほぼ想定された参加を得て実施され、町民がスポーツやレクリエーションを通して体力つくり・健康つくりに取り組み、交流することができた。レクリエーションスポーツは参加しやすいことが特徴で、勝敗にこだわり過ぎず楽しみながら心地よい汗を流すことで、幅広い層の健康つくりにつながる。今後も町民の関心が高まるよう工夫や啓発に努め、継続していただきたい。

主要施策	地域における指導者の確保及び育成

【意見】

〇スポーツ指導者確保及び育成　…　スポーツ推進委員や町スポーツ協会・少年スポーツ団体により、多くの町民がスポーツの参加する機会が提供されている。それぞれの関係者が各大会等の運営に携わることで、地域スポーツの担い手や指導者としての人材育成につながっている。現在進められている部活動の地域移行においても、指導者の人材確保や指導体制の構築が大切であり、今後も指導者の発掘や育成を継続していただきたい。

主要施策	社会体育施設等の充実

【意見】

〇社会体育施設管理　…　町内の社会体育施設や公園は、町民が安全で快適に活動・利用できる場として大きな役割を果たしている。今後も老朽化に対応し、計画的な整備と適切な維持・管理に努めていただきたい。